

2020年度

ファカルティ・ディベロップメント活動報告

東京基督教大学

はじめに

「そうして、あなたがたが心を一つにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父である神をほめたたえますように。」（ローマ人への手紙15章6節）

2020年度はコロナ禍に大学全体で向き合った一年となった。5月から授業もチャペルもすべてをオンラインでスタートすることを決めて、4月は急遽オンライン授業の準備研修に取り組んだ。秋・冬学期と少しずつ学生が入寮し、そのためハイブリッド授業の導入とその準備も行った。チャペルは火曜のみ教員による説教動画を配信し、水木曜は卒業生チャペル動画配信、金曜に小グループチャペルをZOOMで行った。FD/SDは予定を変更しこれらの新たな取り組みを実現するための研修に集中することにした。

教育改善FD（4月14日）は「オンライン授業に関するFD」をテーマとして、岡村直樹教授・立山剛職員（兼任教員でもある）が講師となり、オンライン授業を実行するためTCUオンライン・Zoom・Teams等の研修を行った。この後も3回続けて岡村教務部長と立山職員が講師に立ってくださり、教職員全員及び兼任教員が火急の必要に応えるための研修を実施してくださったことに格別の感謝をしたい。

教員研修会（8月21日）は「TCUの挑戦！教員・職員・学生みんなで創るオンライン教育」をテーマに春学期のオンライン教育について振り返った。教員・職員・学生それぞれの立場から意見交換を行い、課題を共有し秋学期以降のオンライン教育の改善につながる機会となった。また、教育改善FD（11月3日）は「はじめてのハイブリッド授業」をテーマに冬学期から開始されるハイブリッド授業に備えた。さらに教育改善FD（2月16日）は「ふさわしい成績評価とは？—学生が成長し、主体的に学ぶ力を身につけるために」をテーマに、2021年度から開始される新カリキュラムに合わせた新しい成績評価基準について説明し、新システムにおける成績評価の入力方法を確認した。いずれの回も岡村教授・立山職員のコンビで行われた。

第2回ファカルティ・フォーラム（3月9日）は「TCUポートフォリオ～主体的に学ぶ学生を育成するために～」をテーマとして2021年度から始まる新しい担任制度、コイノニア、TCUポートフォリオに備えて詳細を説明し、意見交換を行った。教育・学生支援に関わるこの回の準備を、教育・学生支援担当副学長の大和教授と立山職員で担当した。

非常事態を機にオンライン教育に教職員が一丸となって取り組めたことを感謝して。

学部長（FD委員長） 大和 昌平

目 次

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会規程	1
2020年度 FD 委員会メンバー表、FD 活動一覧	2
教育改善 FD (4月14日)	3
「オンライン授業に関する FD」	
講 師：岡村直樹、立山剛	
教員研修会 (8月21日).....	9
「TCU の挑戦！教員・職員・学生みんなで創るオンライン教育」	
講 師：岡村直樹、立山剛	
教育改善 FD (11月3日)	31
「はじめてのハイブリッド授業」	
講 師：岡村直樹、立山剛	
教育改善 FD (2月16日)	33
「ふさわしい成績評価とは？ - 学生が成長し、主体的に学ぶ力を身につけるために」	
講 師：岡村直樹、立山剛	
第2回ファカルティ・フォーラム (3月9日)	43
「TCU ポートフォリオ～主体的に学ぶ学生を育成するために～」	
講 師：大和昌平、立山剛	
付録	47
授業評価	
学生による授業評価アンケート (2020 年度) 実施要領	
教員による授業相互評価 (2020 年度) 評価項目	
案内ちらし	
第1回ファカルティ・フォーラム (12月22日)	

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

2008年（平成20年）9月9日施行

（目的）

第1条 東京基督教大学は、建学の精神に基づき、教育理念の実現に向け、教育活動の継続的な改善と支援を目的として、ファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という）を推進するため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FD活動を推進するための組織的な取り組みを行う。

- （1）教育研究活動のための調査および支援
- （2）授業内容・方法の改善・向上のための計画・実施
- （3）新任教員研修
- （4）FD活動の点検及び評価
- （5）FD活動報告書の刊行
- （6）FD活動に関する情報の収集と提供
- （7）その他FD活動の目的達成に必要な活動

第3条 （削除）

（委員会の構成員）

第4条 本委員会の構成員は、学務会議の構成員とする

（委員長）

第5条 委員会の委員長は、学務会議の議長とする。

（会議）

第6条 委員会は、適宜会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員会は、委員の過半数をもって成立し、審議事項の決済には、出席委員の過半数の賛成を必要とする。

（事務担当者）

第7条 委員会は、本学におけるFD諸活動を実施するために、事務担当者を置く。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、委員会の提案に基づき、教授会の議を経て学長が行う。

附則 [2008年（平成20年）9月9日制定]

この規程は、2008年（平成20年）9月9日から施行する。

附則 [2012年（平成24年）1月10日改正]

この規程は、2012年（平成24年）4月1日から施行する。

附則 [2015年（平成27年）1月13日改正]

この規程は、2015年（平成27年）1月13日から施行する。

附則 [2016年（平成28年）1月12日改正]

この規程は、2016年（平成28年）1月12日から施行する。

附則 [2020年（令和2年）2月4日改正]

この規程は、2020年（令和2年）2月4日から施行する。

附則 [2021年（令和3年）3月2日改正]

この規程は、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

2020年度 ファカルティ・ディベロップメント委員会構成員

大 和 昌 平 (委員長)

中 澤 秀 一

菊 池 実

岩 田 三枝子

岡 村 直 樹

伊 藤 明 生

2020年度 F D活動一覧

開催日	F D活動	講師・発題者	場 所	対 象	参加者数
2020年 4月14日	「オンライン授業に関するFD」	岡村直樹 立山 剛	大会議室/ zoom	全教員	36名
2020年 8月21日	教職員研修会 「TCUの挑戦！ 教員・職員・学生みんなで創る オンライン教育」	岡村直樹 立山 剛	zoom	全教職員 学生CA	69名
2020年 11月3日	「はじめてのハイブリッド授業」	岡村直樹 立山 剛	中3教室/ zoom	全専任教員	29名
2020年 12月22日	第1回 Faculty Forum 紀要合評会	伊藤明生 井上貴詞	zoom	全専任教員	22名
2021年 2月16日	「ふさわしい成績評価とは？ - 学生が成長し、 主体的に学ぶ力を身につけるために」	岡村直樹 立山 剛	zoom	全教員 教学職員	42名
2021年 3月9日	第2回 Faculty Forum 「TCUポートフォリオ ～主体的に学ぶ学生を育成するために～」	大和昌平 立山 剛	zoom	全専任教職員	33名

2020/4/14

東京基督教大学教授会
オンライン授業に関するFD



ちょっとした

- 1) オンライン授業に関する神学的考察
- 2) オンライン授業と質の課題
- 3) TCUが提供するオンライン授業のためのツール

2020/4/14

東京基督教大学教授会
オンライン授業に関するFD



ちょっとした

- 1) オンライン授業に関する神学的考察
- 2) オンライン授業と質の課題
- 3) TCUが提供するオンライン授業のためのツール

1) オンライン授業に関する神学的考察

オンライン教育は、遠隔教育とも呼ばれます。緊急事態宣言の発令で、今回、必要に迫られる形でTCUでも遠隔教育を始めますが、実は聖書の中にも遠隔教育は存在しています。新約聖書の時代、信仰教育の大きな部分は、教師との対面ではなく、送られてきた手紙（書簡）によってなされていました。パウロが各地の教会の人々の顔を思い浮かべつつ手紙を書いたように、教員も、学生の顔を思い浮かべながら、祈りつつ授業を準備するとき、そこに神様はきっと働いてくださるでしょう。

2) オンライン授業と質の課題

新型コロナウイルス感染の影響で、世界中の大学では、十分な準備の時間を持たずに、オンライン授業が始められることとなりました。以下に学生から頻繁に聞かれるネガティブな声を列記します。

「資料もないまま、ただ喋って終わる。」

「オンラインというだけで時間を短縮する。」

「顔を出さず、PPT画面に声だけ流す。」

「PPTファイルだけアップロードする。」



対面授業に勝るとも劣らない質の高いオンライン授業が確かに存在する中、オンライン授業に関する学生の不満は、学生と教員の双方にある、オンライン授業に対するレディネスの欠如によって起こっていると言えるかもしれません。

当然、今回のように、いくつものオンライン授業を1ヶ月未満で準備するのは至難の技です。未知の領域に踏み込もうとしているのは、教員も学生も同様です。必要なことは、双方がそのことを認識し、歩み寄ることです。

そのために必要なのは・・・



1) まず教員が神と人の前で謙遜になり、自らの足りなさを告白すること。 「初めてなのでよろしくネ！ウフ♥！」

2) 学生に対し助けを求めつつ、良い授業作りのため、「共に努力する」雰囲気醸成すること。

3) 学生の声を聞き、それを積極的に授業改善に生かすこと。



3) TCUが提供するオンライン授業のためのツール

・ZOOM ・ビデオ録画 ・TCUオンライン

どれかひとつを選ぶ必要はありません。それぞれの授業に合ったツールを、教員自らのITスキルと照らし合わせ、複合的に用いると効果的でしょう。例えば、ビデオ録画した授業を学生が見て、その授業内容に関する議論を、ZOOMを使って行う。その上で、TCUオンラインで課題のやり取りをする。といった具合です。

ZOOMの特徴（ポジティブ）

- ・ 全員の顔を見て話せ、挙手機能もある。
- ・ 教室でスライド投影をするイメージで、先生の画面を生徒に一括で共有できる。
- ・ 「ブレイクアウトルーム」の機能で、少人数のグループに分かれてグループワークができる。
- ・ チャット機能があり、テキストでのコミュニケーションができる。
- ・ 録画・録音ができる。

ZOOMの特徴（ネガティブ）

- ・ テクニカルな要素に左右されてしまう。
(wifi 環境の不十分さやディレイの発生)
- ・ 操作に慣れるまで時間がかかる。(双方)
- ・ 人数に限られる。(20人程度が限度!?)
- ・ 決められた時間を共有しなくてはならない。
- ・ 場の雰囲気なかなか掴めない、また作れない。
- ・ 実習ができない。

ZOOMを用いた効果的な授業のために・・・

- ・ はじめから全ての機能を使いこなそうとはせず、学生と共に少しずつ慣れていこうという気持ちで向き合しましょう。
- ・ 他のツールも効果的（複合的）に使いましょう。



ビデオ録画

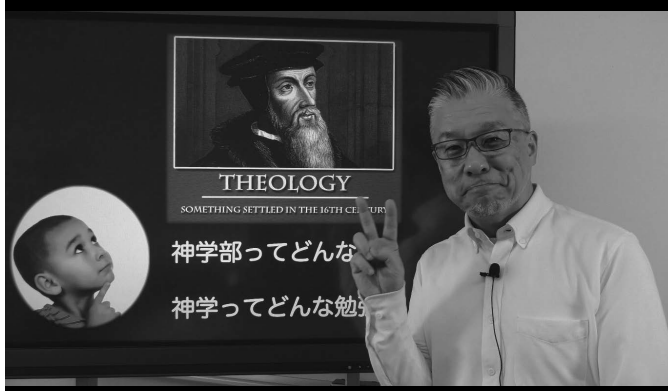
TCUには、4K対応のビデオカメラと、録音、照明の機材が揃っています。また自宅で、スマートフォンを使ってビデオを録画することもできます。

スマホを使ったビデオ撮影の方法は、YouTube上で観ることができます。

録画されたビデオは、TCUオンライン上からのリンクで観ることができます。

授業のビデオ録画は、教員がいつものような講義をすることができるというメリットのみならず、ネット上に上げられた場合、学生はいつでも、また繰り返しそれを見ることができるといった、利便性が高いのが特徴です。

ビデオ録画のパターン・・・#1 教員が中心！



ビデオ録画のパターン・・・#2 教員がワイプ！

神学部のある日本の四年制大学

日本基督教団系
同志社大学。関西学院大学。東京神学大学。

バプテスト系
西南学院大学。

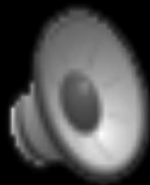
カトリック系
上智大学。

福音派系
東京基督教大学。

「たったの6校、200人?? えっ、少なッ！」

A man in a suit and glasses is speaking. Behind him is a screen displaying a list of universities. The list includes: '神学部のある日本の四年制大学', '日本基督教団系 同志社大学。関西学院大学。東京神学大学。', 'バプテスト系 西南学院大学。', 'カトリック系 上智大学。', '福音派系 東京基督教大学。', and a quote: '「たったの6校、200人?? えっ、少なッ！」'. There is also a small inset image of a building.

ビデオ録画のパターン・・・#3 教員は出ない！

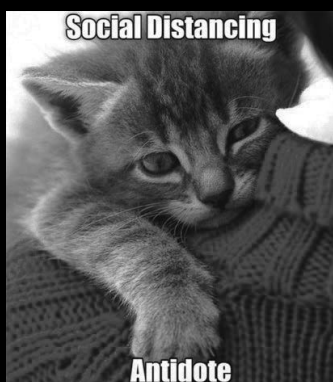


TCUオンライン

zoomのリンク、ビデオ動画のリンクを始め、読書課題の提示、宿題の回収など、TCUオンラインを起点として、春学期のオンライン授業は展開されていきます。今まであまり使ったことが無い方は、今回、良い機会ですので、是非使って見てください。



この後は立山さんです！



オンライン教育FD

4/14 立山剛



本日の内容：概要

2

1. システム利用の流れ
2. zoomの利用端末
3. zoomの事前準備
4. セキュリティとルール
5. ホストのルール
6. 録画について

本日の内容：TCUオンライン

3

1. 資料アップ
2. 参加者にメッセージ：メールにも送信される
3. 出欠管理
4. 課題提出1：
5. 課題提出2：Turnitin

授業形態

4

1. オンライン対面授業：zoom
2. オンデマンド：録画動画+TCUオンライン
3. 反転授業：オンデマンド+オンライン対面授業

システムの使い分け：TCUオンライン

5

1. 資料アップロード
2. 講義動画（埋め込み）
3. 課題提出
4. フォーラム
5. テスト

システムの使い分け：zoom

6

1. オンライン対面授業
2. グループワーク
3. 投票
4. チャット

システムの使い分け：Teams

7

1. チャット
2. 音声通話
3. ビデオ通話

システムの使い分け：stream

8

1. 動画の保存場所

zoomの利用端末

9

1. 操作：PC
2. チャット：スマホ
3. 板書：ipadを共有
4. 外部ディスプレイ：発表者ツール

zoomの事前準備

10

1. 1時限目 8:40-9:50 (20分休憩)
2. 2時限目 10:10-11:20
3. 3時限目 13:00-14:10
4. 4時限目 14:10-15:20 (20分休憩)
5. 5時限目 15:40-16:50
6. 6時限目 16:50-18:00

zoomの事前準備

11

1. 授業開始：チェックイン（オープニング）
 - グッドニュース
 - 先週したこと
 - 昨日何食べた
2. 授業終了：チェックアウト（クロージング）
 - 質問のフィードバック
 - 気づきや理解したことの共有

セキュリティとルール

12

1. 暗号化の信頼性
2. クライアントソフトの脆弱性⇒現在修正済み
3. 第三者の侵入
 - パスワード
 - 待合室
 - TCUオンラインでの共有
 - ミーティングのロック
 - 参加者の活動の制限⇒画面共有とチャット

録画のルール

13

1. 原則学生は顔を出す
2. 録画の際に学生に確認する
3. 録画されたくない学生はカメラをオフにする

録画について



14

1. ビデオ固定：スライドと固定した人のみ録画
2. サムネイルを非表示：スライドのみ録画
3. スピーカービューでビデオ固定：固定した人のみ録画
4. ギャラリービュー：全員録画
5. ブレイクアウトセッションはホストが移動した場所のみ録画
6. 録画データは停止の回数で分割される。一時停止は分割されない。



東京基督教大学 「夏のFD」 2020/8/21

「TCUの挑戦！教員・職員・学生みんなで創るオンライン教育」

	9:00-9:10	礼拝（山口学長）
	9:10-9:50	オンライン教育における霊的養い（岡村教務部長）
	9:50-10:00	休憩
	10:00-10:40	秋学期に向けたオンライン授業ガイドライン（IT支援室立山さん）
	10:40-11:20	オンライン授業・学生支援振り返り（ひとり5分） 教員：斎藤先生、森田先生 学生：大竹さん、クレンさん、小岩さん、 職員：阿部さん（図書館）、立山さん（学習支援）
	11:20-11:30	休憩
	11:30-11:55	グループで分かち合い
	11:55-12:00	閉会

東京基督教大学「夏のFD」2020/8/21
「TCUの挑戦！教員・職員・学生みんなで創るオンライン教育」

9:00-9:10 礼拝(山口学長)
9:10-9:50 オンライン教育における霊的養い(岡村教務部長)
9:50-10:00 休憩
10:00-10:40 秋学期に向けたオンライン授業ガイドライン(IT支援室立山さん)
10:40-11:20 オンライン授業・学生支援振り返り(ひとり5分)
教員: 斎藤先生、森田先生
学生: 大竹さん、クレンさん、小岩さん、
職員: 阿部さん(図書館)、立山さん(学習支援)

11:20-11:30 休憩
11:30-11:55 グループで分かち合い
11:55-12:00 閉会

「オンライン教育における霊的養い」

- 1) TCU生の心(精神)と信仰の状態
- 2) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える活動
- 3) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える授業
- 4) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるキーワード
- 5) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるための提言


「オンライン教育における霊的養い」・・・(混合研究)

協力: 学生のみなさん、徐先生、高橋(信)さん、立山さん、教務課のみなさん

量的データ
・6月中旬に実施された無記名アンケート
112人のTCU生(在宅生、日本語で回答して下さった学生さん)

質的データ
・7月中旬に実施されたインタビュー
グループインタビュー14人
個人インタビュー7人

データ分析の方法
・量的データのクロス・リファレンス分析
・グラウンデッドセオリーを用いた質的分析

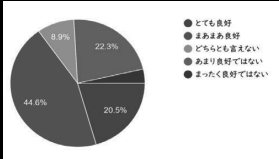


「オンライン教育における霊的養い」

- 1) TCU生の心(精神)と信仰の状態
- 2) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える活動
- 3) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える授業
- 4) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるキーワード
- 5) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるための提言

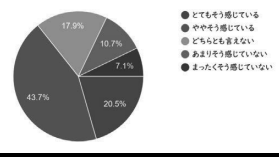
1) TCU生の心(精神)と信仰の状態 (*学生の自己認識に基づく)

あなたの現在の「心の健康状態(精神的な健康)」は、良好ですか。



とても良好	20.5%	(23)
まあまあ良好	44.6%	(59)
どちらともいえない	8.9%	
あまり良好ではない	22.3%	(25)
まったく良好ではない	3.7%	(2)

あなたの現在の「信仰の状態」は、良好ですか。



とてもそう感じている	20.5%	(23)
ややそう感じている	43.7%	(58)
どちらともいえない	17.9%	
あまりそう感じている	10.7%	(25)
まったくそう感じている	7.1%	(4)

① 精神的健康状態と信仰状態の良さには明らかな関係性が見られる。

「心の健康状態がとても良好(23)」と回答した学生の中で、
「信仰状態は良好ではない(あまり、まったく)」と回答した学生は(0) 0%

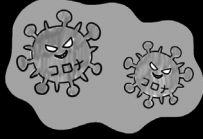
「心の健康状態がまあまあ良好(59)」と回答した学生の中で、
「信仰状態は良好ではない(あまり、まったく)」と回答した学生は(4) 0.7%

「心の健康状態があまり良好ではない(25)」と回答した学生の中で、
「信仰状態は良好ではない(あまり、まったく)」と回答した学生は(11) 44%

「心の健康状態がまったく良好ではない(4)」と回答した学生の中で、
「信仰状態は良好ではない(あまり、まったく)」と回答した学生は(3) 75%

② TCU生の精神的健康状態は、コロナ蔓延に悪影響を受けている。

あまり良好ではない(25)・・・コロナの影響(19)・・・76%
まったく良好ではない(4)・・・コロナの影響(3)・・・75%

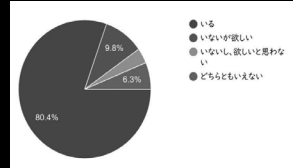


③ TCU生の信仰状態は、精神的健康状態ほどではないが、
コロナ蔓延に悪影響を受けている。

あまり良好ではない(12)・・・コロナの影響(7)・・・58%
まったく良好ではない(8)・・・コロナの影響(4)・・・50%

④ 相談相手の不在は、精神的健康状態や信仰状態に悪影響を与えている。

あなたには「ネット環境以外」の生活全般（人間関係や教会生活等を含む）について悩みがあるとき、相談できる人はいますか？



いる80.4%
いないが欲しい9.8%
いないし欲しいと思わない3.5%
どちらとも言えない6.3%

相談相手がいる(89)・心の健康状態があまり/まったく良好ではない(13)15%
相談相手がない(15)・心の健康状態があまり/まったく良好ではない(10)67%

相談相手がいる(89)・信仰状態があまり/まったく良好ではない(8)0.9%
相談相手がない(15)・信仰状態があまり/まったく良好ではない(8)53%

⑤ TCU生は、同じTCUの友人に対して、相談相手として重要な役割を果たしている。(3人にふたり)

相談相手は誰ですか

TCUの友人・・・66%
親・・・55%
TCU以外の友人・・・54%
牧師・・・34%
兄弟姉妹・・・28%
教会の人・・・28%
TCU教員・・・16%
TCU職員・・・7%



「オンライン教育における霊的養い」

- 1) TCU生の心(精神)と信仰の状態
- 2) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える活動
- 3) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える授業
- 4) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるキーワード
- 5) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるための提言



2) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える活動

コロナ以前のあなたの信仰の成長や霊的形成にポジティブな影響を与えていたのは何ですか？

TCU生同士の交わり74%
教会生活68%
寮での生活60%
授業の内容57%
スプリングリトリート53%
TCUでのチャペル52%
夏季伝道51%
TCUでの祈禱会46%
個人のデボーション46%
教員との交わり44%
TCUでの委員会やサークル活動42%
シオン祭31%

コロナ禍であなたの信仰の成長や霊的形成にポジティブな影響を与えているのは何ですか？

個人のデボーション55%
TCU生とのオンラインでの交わり53%
教会生活50%
オンライン授業の内容50%
小グループチャペル40%
メッセージ動画33%
TCUのオンライン祈禱会29%
デボーションガイド13%

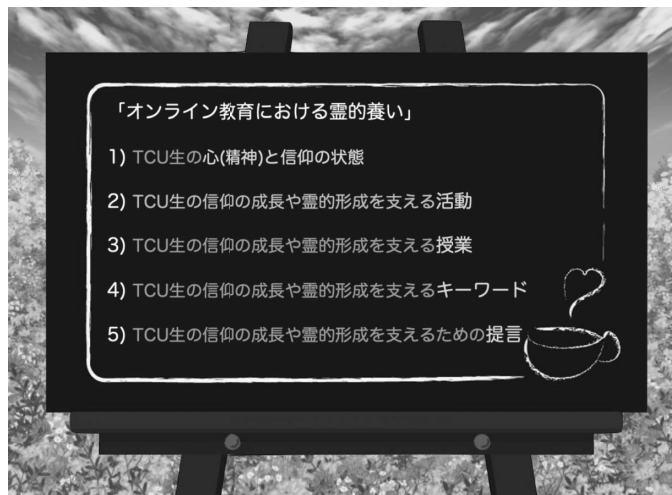
① TCU生の信仰の成長や霊的形成にポジティブに作用していたTCU生同士の交わりの好影響が、2割強減少している。寮が閉鎖され、その交わりがオンラインに限定されることにより、交わりの機会の量的な減少に加え、質的にも低下しているであろうことがうかがえる。

② TCU生の信仰の成長や霊的形成にポジティブに作用していた教会生活も、コロナの影響もあって、その好影響が2割弱減少している。

③ TCU生の、約半数の信仰の成長や霊的形成の機会をもたらしていた(スプリングリトリート53%、TCUでのチャペル52%、教員との交わり44%)の代わりに用意された活動は、代替的な役割を果たすため、健闘している(小グループチャペル40%、メッセージ動画33%、デボーションガイド13%)

④ コロナ渦で、様々な好影響が減少する中で、最も多くのTCU生に信仰の成長や霊的形成の機会をもたらしているのは、個人デポジション (46%・9位 → **55%・1位**) であることがわかった。別の見方をすると、今までTCU生同士の交わり等によって支えられていた信仰の成長や霊的形成が、個々の学生の(信仰)活動に、より大きく依存するようになったと言えるかもしれない。

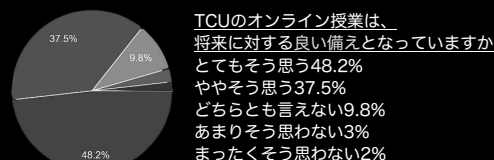
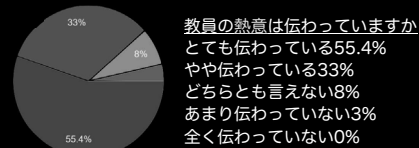
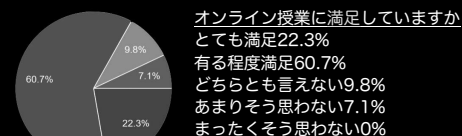
⑤ そのような中で、TCUの授業が、TCU生の信仰の成長や霊的形成に果たしている影響の減少度(57%→50%)は、オンライン教育法という大きな方向転換があったにもかかわらず、比較的少なく抑えられていると言えるかもしれない。



3) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える授業

ここからは、アンケートの自由筆記、グループインタビュー、および個人インタビューから得られた、質的データを交えての分析を開始する。

授業は、コロナ渦におけるTCU生の信仰の成長や霊的形成に対する好影響の順位で4位(個人のデポジション55%、TCU生とのオンラインでの交わり53%、教会生活50%、オンライン授業の内容50%)ではあるが、TCUの教職員が、最も能動的にTCU生の信仰の成長や霊的形成に関わることのできるこのひとつが授業である。TCU生の信仰成長や霊的形成に果たしている授業の役割は非常に大きい。



日本の多くの大学(特に大規模大学)の授業満足度が低い中、TCUは健闘していると言える数字であろう。

具体的なオンライン授業の「長所」に関しては、以下3点が最も頻繁に挙げられた。

「長所」

① 時間や空間の自由度が高い

プライベートな空間で先生の話静静地に聞けることは非常に良い
体調が悪くても授業を受けられる
移動時間がかからず、休憩時間も有効に使える
学内にいるときより忙しくないで十分に課題、学習の時間が持てる
あまり緊張せずにできるところ
移動時間が大幅に減るため、自分の時間を確保しやすい



② 授業が受けやすい

遅刻・欠席が減った
グループセッションに分かれて話し合う時のストレスが減った
移動や対面でのストレスや疲れが少ない分、集中的に学べる
チャットで質問できるので他の人に迷惑をかけないで良い
先生と一対一で授業をしている感覚になれる
リラックスして受けることができる
雑談にならない
全員の顔が見えるので個人的には発言しやすい
周りが気にならないので、対面授業よりも集中しやすい
偉い先生とすぐ喋りやすい
対面でないから先生の話の脱線がそこまでない
対面授業ではそれぞれ指定席があり、グループワークが毎回同じようなメンバーになってしまう。しかし、オンライン授業ではランダムでブレイクアウトルームに行くため、今まで関わってこなかった人と関わることができた
討論では学生全員の顔を見ることができ、かえて豊かになった
自分のペースで授業に参加しやすい

③ 学びの利便性が高い

録画もされているので復習がしやすい
録画された授業を何度も見返せる
先生のバワボをもう一度見返せる
授業の録画や資料がTCUオンラインにアップされること
授業を欠席した場合でもクラウドレコーディングを後で聞くことができるので授業に遅れるという不安がない
チャットで質問が出来る
課題が提出しやすい
授業の資料共有が充実している
使用する機材によっては、対面よりもやり取りもスムーズになることがある。
時間はかかるけどなんども復習ができる
課題の提出がしやすい
目の前に共有資料がでてくる
資料もデータで共有していただけるので、あちこち探さなくてよくて楽

② 通信環境やスキルの問題

教師のオンライン授業のスキルが悪いとお互いとても過酷な授業となる
画面が止まったりしてしまう時がある
先生の声が聞き取りにくい時は大きなストレス
電波障害や画面直視から来るストレス
質問するときにミュート解除するタイミングが他の人とかぶる

③ モチベーションや集中の問題

対面授業よりはどうしてもだらけてしまう
あまり集中できない傾向がある
周りの物に集中を削がれやすい
メリハリがつかない
授業の雰囲気十分に味わうことができないため、授業に対してのやる気が損なわれる

同じ事柄に対して、相反する意見も見られるが、学生の指摘する「短所」を減らすことが、より効果的な授業、強いてはTCU生の信仰成長や霊的形成への好影響につながると言えるだろう。

また霊的な養いと教員の姿については、以下のようなコメントがあった。

教員が、授業の本筋から外れて、体験談やあかしを語る機会が少なかつたように見え、少し残念だった。振り返れば、そのようなことから霊的に養われることは多かったと感じる。

先生の人格に触れるような関わりができたと感じた時には、霊的な養いがあった。

自分の取った授業の先生は情熱的な先生が多く、対面と同じように授業を通し養われたと感じている。

教員の熱意は十分伝わってきた。特に熱意のある先生は、生徒の意見を積極的に聞く姿勢を持っている先生だった。

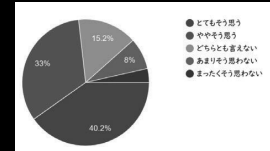
アカデミックな学びという観点からだけでなく、TCU生の信仰成長や霊的形成への好影響という観点からも、これらの長所は大いに生かされていくべきであろう。

一方、今後の授業運営をさらに向上させる上で重要な、オンライン授業の「短所」について、以下のような意見が見られた。

「短所」

① 体や心へのストレスが大きい

目、腰、肩、体が疲れてしまう
休憩が短い
画面を見ることの疲れなどを解消しなければならない
身体的な疲れが大きい
授業や課題で一日に5~6時間パソコン等で勉強することは体に負担
全員に見られているという感覚が拭えず、ストレスが溜まる
疲労感（主に目と肩など）が半端ない



④ 学生同士の交わりのが欠如している（特に多かった答え）

授業後に学生同士で内容の確認がしにくい
新入生なので会ったことのない人たちとグループワークを初めからするのには抵抗がある
授業前、休憩中、授業後、先生やクラスメートと雑談しにくい
相手の気持ちや考えを理解できない時がある
学生間の空気感を感じれないこと
1人で授業を受けてる感覚になる時があり、寂しい
対面の空気の中で読み取れるものや、雑談の中で生まれるものはない
気軽な先生への質問や、友人同士の学びの励まし合いがしづらい
クラスメートや先生とのコミュニケーションが少ない
仲間と相談しながら学ぶことができない
クラスメイトとちょっとした疑問について話せないのが残念
人と自由にはなし合うことができない
授業時以外に授業のことを話すことが難しい
TCUの行事や寮生活、その他の人との関わりがあってこそ勉強を頑張ろうと思える

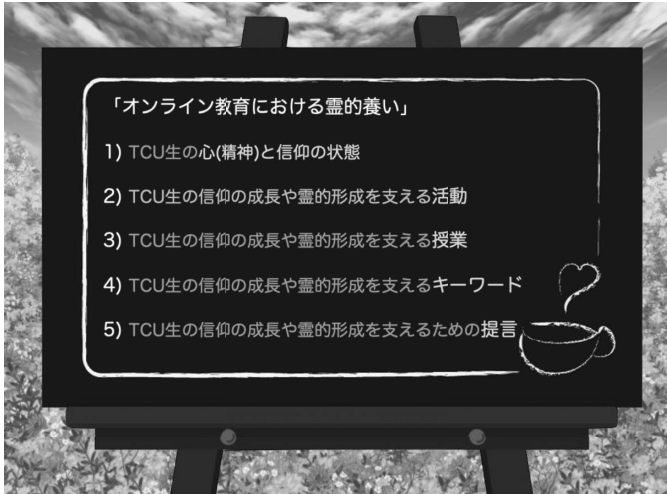
TCU生の信仰の成長や霊的形成を支える授業を目指して
教職員にできることは・・・

- 1) オンライン教育の長所を生かし、スキルを上げる
- 2) 学生の負担を考慮し、効果的な休息の時間を設ける
- 3) 教員から個人的な声かけをする
- 4) 学生同士が能動的な意見交換をする効果的な機会を設ける

集中力をアップし、ストレスを軽減する効果的な休息の入れ方

- 1) 140分授業に2回の休憩（10分x2）
- 2) いつ休憩が入るかを、学生に知らせておく
- 3) なるべくスケジュール通りに





4) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるキーワード

アンケート調査の自由筆記、グループ・インタビュー、および個人インタビューの分析（グラウンデッドセオリーの方法論を用いた細分化とカテゴリー分けの結果）からは、TCU生の信仰成長や霊的形成にとって重要な、以下の3つのキーワード「集中度」「能動性」「学生同士のインターアクション」が浮かび上がってきた。これらのキーワードは、それぞれ独立しているものではなく、相互に作用するものでもある。

① 集中度

授業を通して養われるかどうかは、授業を聞く学生の集中度にも大きく左右されるのではないかと思う

*自分の集中度に左右され（対面と比べ）霊的に受け取れることが少ない
対面の時は、クラスメートと一緒に、集中しようという思いがあった
授業を受け取る側の姿勢の課題が大きいと思う*

② 能動性

*生徒が発言しやすい授業では、霊的養いがあった
他の学生との意見交換が、霊的な涵養につながった
クラス中でのブレイクアウト・セッションの分かち合いが、良い励ましとなった。
ブレイクアウト・セッションが豊かなクラスほど、霊的な満たしを感じた。*

③ 学生同士のインターアクション

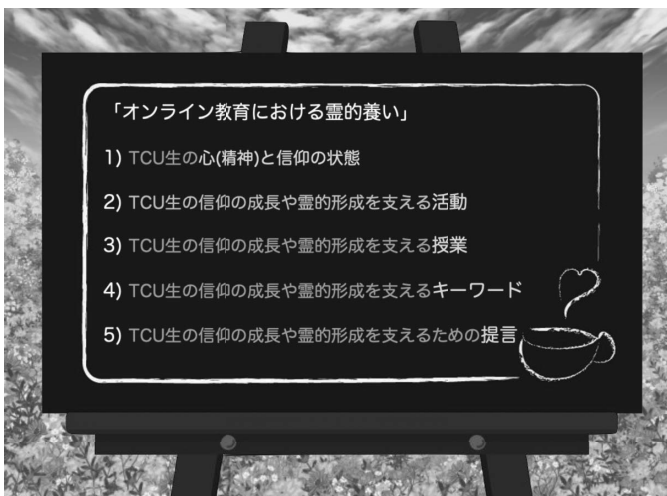
*学生同士の会話や、触れ合いを通して、霊的に養われることが多かった
休み時間などで、学生同士のちょっとしたお喋りの時間が無いことが残念
他者とのやりとりを通して、自分の考えをまとめていく機会を恋しいと感じる
ただ一人で戦っているような感覚がある
クラスの前後で自然発生的に、なにげなくぼんやりと神様について話す機会が無くなってしまったことが辛い。それが自分の霊性にとって重要であったことを今あらためて認識している。
対面授業の前後にあった、他の学生と授業について語り合う時が失われてしまい、それは霊性の涵養にネガティブに作用していると思う。*

3つのキーワードに関わる事柄は、授業のみならず、他の様々な場面でもTCU生の信仰成長や霊的形成に対する重要事項として頻繁に語られた。

*それぞれの学生が工夫して、自分の霊性を保とうという工夫が良かった。
自発的に交わりや励まし合いを持つようと思って取り組んでいたことが良かった。
霊的な涵養に関しては、時間が自由になり、個人的なデポーションを持つ時間ができたことが大きなプラスとなった。*

*寮にいれば、礼拝や祈祷会に誘われるし、賛美の声も聞こえるし、自動的にそれらに参加する。自宅では自発的に行わなくてはならないのが難しい。
自分の霊性を保つ責任を自分一人が負っているような感覚がある。寮生活の中で、共に祈り、共に学ぶという要素が無くなってしまったことが辛い。
大学の側からは、霊的な養いの場が十分提供されていたと思うが、それらに積極的に参加することが難しい。*

*キャンパスの中ですれ違って声をかけることが無くなり、ケアすることが難しい。
積極的に参加できる学生は安心できたが、それが無かった学生は何をしているのかわからないという不安がある。（寮運）*



5) TCU生の信仰の成長や霊的形成を支えるための提言

本発表、特に3つのキーワードを振り返りつつ、以下4つを提言する。

① 学生の心の健康に、個別にアプローチしつつ気を配る

② 学生の最も良い相談相手は学生であることを念頭に、相談の機会を積極的に作る

③ 授業改善に積極的に取り組み、学生の頭と心（精神と信仰）を養い、また学生が集中できる学び（休憩や教材の工夫等）、能動的に学ぶことのできる機会や仕組み（グループワークの工夫等）を作る

④ 学生が能動的、そして協同的に、自身や他者の霊的成長や涵養に取り組みむことを励ます。

最後に・・・心に残ったある学生の発言

「オンラインで続けていくな、コロナのこと以外での、オンラインで続ける意味をしっかりと提示しないと、学生としてはそれぞれの実家でオンラインで学ぶことで何を得ることができるのかがはっきりしません。ただ時間だけが無情に過ぎてしまうだけで、コロナが大変だった一年だな、考えさせられたな、では無責任な気もします。特に新入生や、卒業生にすれば非常に重要な一年なので、その時間を預かっている上で、学生のためにどうするべきなのかを考えていただきたいです。」

TCU生の中には、コロナが猛威をふるう社会の中で、学生として、また信仰者として確固たる「目的意識」を持つことに苦心している人が多くいると思われる。学校側は、「コロナ感染を全力で防ぐ」という覚悟に加え、信仰共同体としての目的をはっきりと定め、その目的に向かって（その上でそこに向かう小さな目標も立てつつ）忍耐強く、能動的に進んでいくことが重要であろうと思われる。

「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。」（ローマ人への手紙5章3b~4）



パウロは私たちに、ただただ理由もなく「忍耐しなさい」「我慢しなさい」とは言っていません。「忍耐」や「我慢」は、虚しく終わることはないと言っています。「有益な忍耐」の先には、虚しい未来があるのではなく「品性」と「希望」があるということです。またそれは、表面的ではない、人間の内側から滲み出る練られた品性であり、人間的、霊的な成長です。

堀越勝「感情のみかた」より

『たとえば「怒り」の感情を持つ時、ある人はそれをその場で爆発させます。そのような人の中には、幼児期のトラウマや認知発達に課題のある方が含まれており、一概に悪いと責めることはできません。しかし多くの場合、私たちは「怒り」「悲しみ」「不安」といったネガティブな感情を押し殺し、それらを「我慢」しようとします。それは非常に日本的であると言えるかもしれません。確かに感情を周りに撒き散らさないことは、社会の中で必要な行動です。しかし「我慢」は、どんな場合でも「有益」であり「美德」と言えるのでしょうか。』

実は、「我慢」には、「有害な我慢」と「有益な我慢」があります。「有害な我慢」は、「目的のない我慢」です。させられている我慢、イヤイヤの我慢、自分の意思で選んでいない我慢です。そのような我慢は「苦々しい思い」だけを生み、またストレスが心と体を蝕んでいきます。人間的な成長にも結びつきません。一方、「有益な我慢」は、「自分で選んでする我慢」、また特に「目的のある我慢」です。これは辛いけれども、「OOという目的を達成するために頑張ろう!」とする前向きな我慢です。このような我慢は、辛いですが、そこには希望があり、人間的な成長をもたらします。』

TCU教職員が肯定的で主体的なビジョンを発信する！

(例)



- ① 神様が今後どんな祝福を見せてくださるかワクワクすること
- ② 試練を乗り越え、より神様に喜ばれる信仰者となることを目指すこと
- ③ 教会の歴史の大転換の真っ只中において、傍観者になるのではなく、積極的に新しいものを作り上げていく牽引者となる気概を持つこと
- ④ 信仰者として、今置かれている場所で、自分にできること、果たすべき役割を積極的に模索すること
- ⑤ オンラインの持つ、ミニストーリーにおけるツールとしてのポテンシャルを確認し、学生と共に、授業やTCU共同体を創っていくという意識を持つこと

グループディスカッション

学生さんの霊的なサポートについて意見を出し合ってください。
授業の改善について、アイデアを出し合ってください。



東京基督教大学「夏のFD」2020/8/21
「TCUの挑戦！教員・職員・学生みんなで創るオンライン教育」

9:00-9:10	礼拝（山口学長）
9:10-9:50	オンライン教育における霊的養い（岡村教務部長）
9:50-10:00	休憩
10:00-10:40	秋学期に向けたオンライン授業ガイドライン（IT支援室立山さん）
10:40-11:20	オンライン授業・学生支援振り返り（ひとり5分） 教員：斎藤先生、森田先生 学生：大竹さん、クレンさん、小岩さん、 職員：阿部さん（図書館）、立山さん（学習支援）
11:20-11:30	休憩
11:30-11:55	グループで分かち合い
11:55-12:00	閉会

質の高いオンライン教育を目指して ～授業ガイドラインとTips～

2020年8月21日 教職員研修会
立山剛



目 内容

2

- 教員とCAの役割分担
- 出欠のガイドライン
- Teamsの活用について
- 授業構成
- グループワーク
- チェックイン（オープニング）
- チェックアウト（クロージング）
- 試験方法
- Tips

🎯 本日のゴール

3

1. ガイドラインの内容を理解しクラスで取り入れられる工夫を見つける

👤 質の高いオンライン教育とは？

4

1. 知識や情報のつながり・関連性を理解する
2. 対話により多様な意見が言える環境
3. 学修コミュニティの形成

（コネクティビズム George Siemens）

教員とCAの役割分担

5

教員	CA	
Zoomのホスト	出欠	グループ分け
授業資料アップ	欠席届確認	トラブル対応
課題提出場所の作成	音声管理	動画のアップ
投票準備	録画	
	チャット確認	

出欠のガイドライン

6

1. 遅刻：理由なく学生が10分以上遅れる。
2. 欠席（140分授業）：理由なく学生が30分以上遅れる。
3. 欠席（70分授業）：理由なく学生が15分以上遅れる。
4. オンデマンド授業：教材を閲覧したか確認できるアンケートや課題を設定し、回答状況によって出席を確認する。

Teamsの利用

7

1. TCUオンラインのリンクが入口
2. 科目の担当教員、CA、履修者のみがアクセスできる
3. CAが運営する
4. トラブル対応、授業後のコミュニケーション、オフィスアワーに利用する
5. Streamに動画をアップするグループ

授業構成

8

1. タイムスケジュールの確認
2. 30分程度を1セッションとして構成を組み立てる
3. 目標の確認

⇒なぜ必要か？
疲労と集中力低下を防ぐ

タイムラインの例

9

- 13:00～13:20 チェックイン（オープニング）
13:20～13:50 サイバースケード
13:50～14:00 休憩
14:00～14:30 表現の自由
14:30～15:30 プロジェクト
15:00～15:20 チェックアウト（クロージング）

🎯本日のゴールの例

10

1. 著作権の目的を説明できる
2. 著作物と著作物でないものを区別できる
3. 引用のルールを説明できる
4. 著作権における違法行為と違法でない行為を区別できる

グループワーク

11

1. 事前の指示を明確に
2. 小グループから大グループへ
3. アウトプットを可視化する

グループワーク指示の例

12

1. 質問：情報技術がキリスト教に与える影響を考える
2. ペアトーク：3分
3. 5-6人で6チーム
4. まとめる人：学籍番号が一番大きい人
5. 黄色付箋：3分間で各自意見を出す
6. 青色付箋：ポイントを3つにまとめる
7. 話し合い 14分（意見出し3分+まとめ11分）

チェックイン

13

1. アイスブレイク
2. 前回の授業を思い出すペアトーク
3. 前回の理解度確認（投票機能）

⇒なぜ必要か？

- ・遅れる学生への対応
- ・授業参加への準備
- ・心理的安全性の確保
- ・おいてきぼり感を与えない

チェックアウト

14

1. コメントシート
2. 理解度チェックシート
3. 振り返りトーク

⇒なぜ必要か？

- ・授業の終わりを自覚し次に向かう準備
- ・授業中に書かせることで課題を減らす
- ・毎回理解を確認すること高頻度でフィードバックを提供する

評価方法

15

1. クローズドブック評価：試験中に資料を持ち込みできない評価方法で、暗記による理解度の確認が中心となる。
2. オープンブック評価：試験中に資料を持ち込みできる評価方法で、暗記ではなく知識の応用力が中心となる。

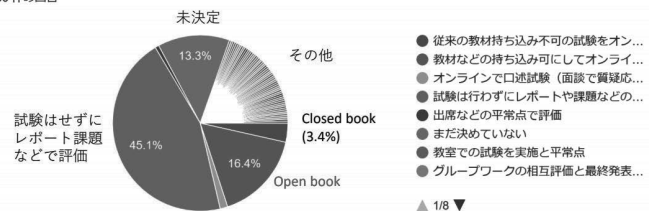
⇒オンライン教育ではオープンブック評価が使われる

評価方法

16

問9

問6で「既の実施している」と回答頂いた方にお尋ねします。成績評価はどのようにしていますか？
286件の回答



試験方法：クローズドブック評価

17

1. 質問をランダムにする：学生によって解く問題が異なる
2. 試験回答後に回答方法をレポートで提出
3. 口頭試問：少人数クラスなら可能

試験方法：オープンブック評価

18

1. 試験開始時間を学生が選択できる
2. 受験回数を増やせる
3. 設問の例：

1. 外部ディスプレイ：画面を共有した時に学生を確認できる
2. コメントスクリーン：スクリーン上にコメントが流れる
3. バーチャル背景を使ったクラスディスカッション

9:00-9:10	奨励 山口学長
9:10-9:50	オンライン教育における霊的養い 教務部長 岡村先生
9:50-10:00	休憩
10:00-10:40	質の高いオンライン教育を目指して IT支援室 立山職員
10:40-11:20	オンライン授業・学生支援振り返り 教員：斎藤先生、森田先生 学生：大竹君、小岩さん、クレンさん 職員：阿部さん
11:20-11:30	休憩
11:30-11:55	グループで分かち合い
11:55-12:00	閉会

主に三つの工夫を紹介します。

- 1) 時間の管理、2) 15-20 分単位のモジュール化、3) チャットの活用

1) 時間の管理:

オンライン授業では、受講生の集中力に限界があると考え、時間の管理を大事にしました。具体的には以下のことをしました。

—その日の授業のタイムスケジュールを決める

—授業前に Teams にアップ、CA にタイムキーパーを依頼

—授業開始後はそれぞれの区分で「半分経過」「終了 5 分前」等、CA がチャットで教員に通知

(利点) 教員が授業に集中できる; 時間の管理がスムーズ; Teams にアップすることで学生もその日のスケジュールを確認でき、それが安心感になったとのこと (CA 談)

スケジュールの例)

〇〇兄、今日のタイムスケジュールです。

13:00 先週のチャット・リアクション(フィードバック 15 分)

13:15 セッション1(ティーチング 15 分)

13:30 ブレークアウト(アウトプット 15 分) ルーム設定 8 分(グループ設定も CA 担当)

13:45 セッション2(ティーチング 15 分)

14:00 休憩

14:15 セッション3(ティーチング 15 分)

14:25 ブレークアウト(アウトプット 15 分) ルーム設定8分

14:45 セッション4(ティーチング 15 分)

14:55 ブレークアウト(アウトプット 15 分) ルーム設定8分

15:15 まとめ

2) 15-20 分単位のモジュール化:

基本コンセプト: 学生の集中力が続くように、15 分から 20 分でコンテンツを変える

3 つの基本コンテンツ

- ① ティーチング(講義: 方向性は **教員 ⇒ 学生**)
- ② アウトプット(ブレークアウトの活用: 方向性は **学生 ⇄ 学生** 教員は外から見守る)
- ③ フィードバック(学生の提出物に対するコメント等: 方向性は **教員 ⇄ 学生**)

Note:

- ・15-20分経過するごとに、これら3つのコンテンツが入れ替わる→教育効果のアップ
- ・ブレイクアウトでは、時間のロスなしにディスカッションに入れるよう、ブレイク前に教員がリーダー役を指定(例:誕生日が8月21日に一番近い人、お昼に麺類を食べた人 etc)

2) チャットの活用

内容: ZOOM 退出時に授業の感想、疑問、リフレクションを短くチャットに残して退出してもらう。

活用①「読む」: 学生の理解度の確認。チャットの中には必ず授業改善のヒントもある。

活用②「メール」: チャットにあった質問にはメールで答える。学生との授業外の対話が生まれる。

活用③「改善」: 授業改善のヒントがあれば、次回にそれを生かす。

活用④「フィードバック」: 次回授業の冒頭で5分ほどかけて、前回のチャットメッセージの中から興味深いものを匿名でシェアし、教員からのフィードバックをする。前回の復習にもなり、その日の授業トピックへの良い導入にもなる。

※秋学期にトライしようと思っていること:

Teams をトラブル対応以外に活用したい。具体的には …

① 授業外に学生が質問できる「質問プラットフォーム」:

リアクションペーパー準備の中で疑問に思ったことをいつでもアップして尋ねることができる。教員は随時対応。他の学生も見られる形にし、学生の間でも共有。

② 授業外に教員・学生がディスカッションできる「ディスカッションプラットフォーム」学びの場:

学生が前回授業の復習やリアクションペーパー準備の中で、他の人の意見を聞きたい時にトピックをアップし、教員も交えて非同期で対話する。自由なディスカッションや学びの場に育てる。

心掛けたこと：

- クラスとしての一体感を生み出す： Facebook のグループページ上で、リフレクシヨンペーパーを共有し、学生間でコメントすることを奨励した。
- グループワークの効率化： グループで議論した内容を、OneDrive（クラウド）上に保存したパワポのスライドに学生が記述することで、各グループの様子が同時に確認できる（スライドに書き込みがないグループをピンポイントでフォローする）。
- 反転授業： 授業内容の一部となる動画を事前に鑑賞してもらい、授業内ではその内容についての議論に時間を割くようにした。

反省点：

- 課題の多さ： 反転授業のスタイルになると事前課題が増えてしまう（但し、例年よりも提出率は高かった。）
- 個別対応： 授業外場で個別に質問を受け付ける体制が充分ではなかった。（→授業時間中のチャット機能を活用する。）
- フィードバック： 授業の進め方や理解度について、こまめに学生達からフィードバックを受ける体制が充分ではなかった。（→TCU オンラインのアンケート機能や、Zoom の投票機能を使う。）

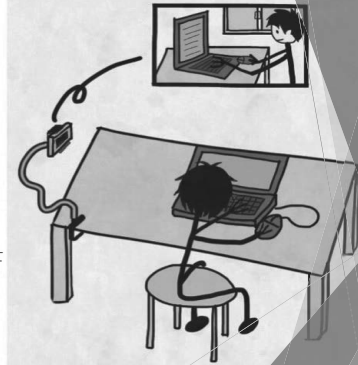
【集中できる授業であるかが、恵まれるかの分岐点】



- ・集中して聴ける授業は心にハマるワードがあるし、吸収して霊的な成長もあるが、
- ・まったく集中できないと、どんなにいいことを言っても頭に入らない。
- ・教員としてZoom授業を工夫すべきは、いかに集中させられるかだろう。

【カンニング放題】

- ・クラス全体の学力低下を招き、テスト勉強のやる気や、生徒同士の教え合いの消失。
- 東京大学では、カメラを自分の横に置いて、机と筆記の様子が映るようにして試験を行う。



【みんな揃って礼拝したい】

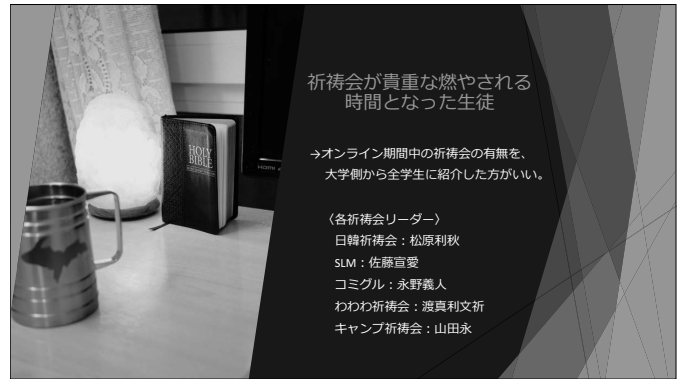
- ・全学生で参加するチャペルを懐かしむ生徒。…春学期はStreamからメッセージ動画配信。
- 全学生参加型Zoomチャペルの要望。学期に数回がいい。
- ・みんなで一体となって礼拝する時を持ちたい、という声。



祈禱会が貴重な燃やされる時間となった生徒

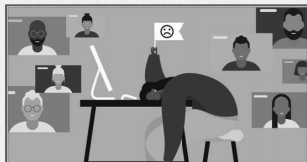
→ オンライン期間中の祈禱会の有無を、大学側から全学生に紹介した方がいい。

〈各祈禱会リーダー〉
日韓祈禱会：松原利秋
SLM：佐藤宣愛
コミグル：永野義人
わわわ祈禱会：渡真利文祈
キャンプ祈禱会：山田永



「ZOOM疲れ」を防ぐために

- 正直に伝える雰囲気を感じてから作る
 - 例：「今日は目が痛いのでビデオをオフにしてもいいですか」などのリクエストを聞きやすくする
- 十分に休憩を与える
 - 30秒で肩でストレッチをすることも！
- 授業の前に軽く会話をする
- 授業内容のプレゼンテーション中は学生がビデオをオフにする



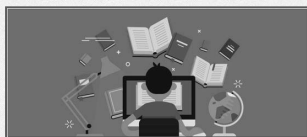
ディスカッションの注意点

- 質問をできる限り明らかにす
- Powerpointなどで学生が回答をシェアする
- ブレイクアウトルームで話したことがない学生を組む
 - (ZOOMの自動機能を使うと同じ人が組まれることが多い)
- ディスカッションをオンラインですると普段より時間がかかりますので、十分に時間を与える



課題を新鮮に感じるためには

- TCUオンラインの機能を全部試して、様々な課題を提出してもらおう
- ZOOMのクイズを事前に作成して、授業中の内容理解・集中度の確認をクイズで行う
- ATLAなどでの資料の提供と使い方を授業中で説明する





予めスケジュールを提示する

- ・安心感
- ・目標がはっきりする
- ・クラス全員でタイムキープをすることができる



チャット機能を活用する

- ・質問/意見
- ・発言をするのに気軽
- ・ネットライブ感覚で積極的に授業に参加しやすくなる



画面に動きをつける

- ・powerpointのアニメーション、画面切り替えやデザイン
- ・動画や写真、ブレイクアウトセッション、投票など様々なコンテンツを用意する
- ・上手に画面の切り替えをして、集中力を切らせない工夫

アイデア

Teamsをクラス外のコミュニケーションの場にする

1 先生への質問

2 学生の意見交換

3 履歴が残る

4 先生とCAが履修生の困っていることに反応、把握しやすい



“ひとり”ではなく、
 “みんな”で参加している感覚を目指し
 積極的に参加できる環境づくりを！

制限付き開館から 新しい様式の開館へ

教職員研修会
 2020年8月21日(金)
 東京基督教大学図書館
 阿部伊作

制限付き開館 23回



開館日計23日
 4月6、5月0、6月2、7月9、8月6
 (6月から7月までは予約制)
 火・木 週2回
 時間:10:00~15:00



対象
 在学生・教職員のみ。
 学外者(卒業生含む)禁止。
 ・利用者:毎回5名以下



提供サービス
 予約による貸出・返却サービス & 郵送のみ(7月まで)
 ・貸出変更 返却期限日と冊数変更

郵送貸出サービスのスタート

貸出冊数255冊 76 申込(延人数、在寮生、教員来館含む)	発送:22回	対象:在学生・教員
5月11日から開始、 条件:利用者一人につき月1回発送(一回5冊まで)	送料:図書館側負担 ゆうパック利用	利用者はTCUOPACから 予約申請 → 貸出連絡は図書館から 利用者へメール送信

来館しないで使える図書館サービスの拡充

オンラインデータベースなど現在利用できるサイトの紹介

- ★ TCU機関リポジトリ、JSTOR ATLA CINIi など
- ★ 百科事典ジャパンナレッジ、ブリタニカ

電子書籍の追加 281冊(和126、洋155)

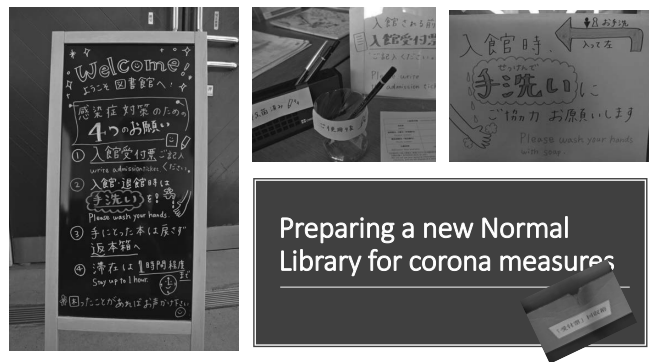
丸善統計 282回利用(多読本多い)
 * 多読本 教員リクエストで追加、EBSCOは洋書(ACTES教科書)

トライアルの利用

1. ProQuest データベース統計(4-6月)348回(うち論文DBは184回アクセス)
2. 音楽DB NAXOS music library

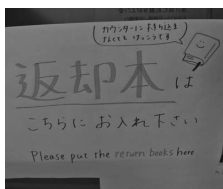
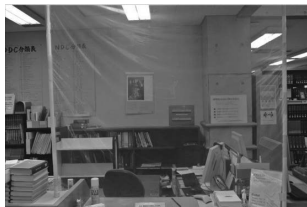
図書館の三密コロナ対策 除菌について

返却図書のリボン・除菌、使用済みスリッパの除菌	手すり・ドアノブなど	換気	入館票 (利用者確認、名前、連絡先、利用日時明記)
使用制限サイン	カウンター飛沫防止 透明シート設置	時間制限	個室、グループスタ ディ室は一人利用へ
閲覧済み資料の別 置・除菌	除菌済みシー除菌済 みシート、使い捨て手 袋のごみ捨て、使い 捨て手袋のごみ捨て	スタッフの健康管理・ 在宅勤務	



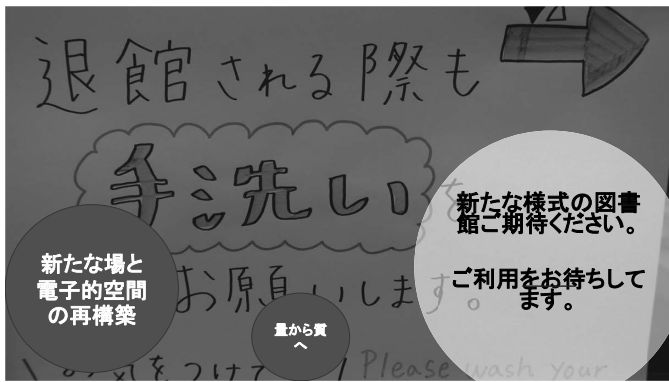
1F Counter

・本の除菌、使い捨て手袋、シート



新たなサービス、WEBから文献複写サービス (TCUOPACから申込)





春学期学修支援ふり返り

2020年8月21日 教職員研修会
立山剛



成績評価について

2

1. GPAの平均が約0.5ポイント増 (2.7⇒3.2)
2. 再試験の数が一桁に減少
3. 単位取得不可の「F」が減少

学習支援チュータリング

3

1. 春学期対象者：7名
2. GPA1.8をクリアした対象者は4名
3. 秋学期に新たに対象者となる学生は1名

オンライン教育の影響

4

1. 語学を中心に朝の授業に出席しやすかった
2. 課題の提出場所が一元化された
3. 持ち込み不可の試験が減った
4. 授業外活動時間の縮小により学習時間を確保できた
5. 保護者の強力なバックアップにより生活面の改善があった
6. チュータリングに参加しやすかった



1) 教室の設定

教員

- ・ 机の除菌と機材準備のため早めの入室が望ましい。
- ・ 教室の換気を確認する。
- ・ 講義中以外はマスクを着用する。

教室の生徒

- ・ マスクを着用し、2m間隔で着席する
- ・ 着席前に机を除菌する。
- ・ ZOOMにアクセスし、スピーカーの音量を切る。

ZOOMの生徒

- ・ ZOOMアドレスの確認と入室の確認をする。

2) 機材の設定

コンピューター

- ・ ラップトップ・コンピューターのみでOK！

カメラ

- ・ 内臓カメラで十分だが、外部用も利用可能。

外部モニター

- ・ ケーブル接続する。(USB-Cのコネクターが必要!)
- ・ ZOOM画面をそこへ移動する。(照度調節が必要!)

マイク/スピーカー

- ・ Bluetoothで接続する。
- ・ 事前確認が必要。(ZOOM学生に聞こえているか)

3) 資料の提示

共有する画面

- ・ 学生が見る資料 (PTT等) を表示する。

共有しない画面

- ・ 教員のみが見る資料 (PTT等) を表示する。

その他の資料

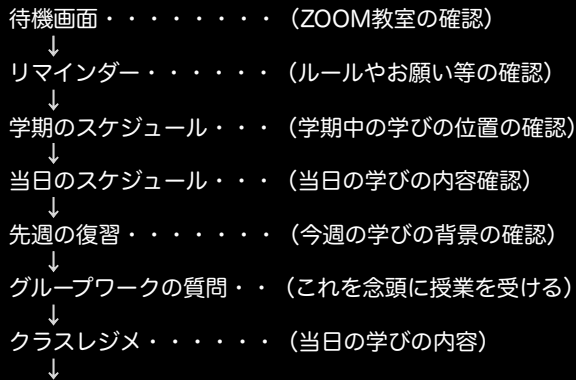
- ・ 複数の資料をあらかじめスタンバイしておく。
- ・ 資料を板書の代わりとする。

TCUオンラインの活用

- ・ 資料は、あらかじめTCU Onlineに掲載しておく。
- ・ 学生には資料ダウンロードの指示を伝えておく。



4) 画面の順序 (学生のメタ認知度を高める方策)



5) 授業の運び

休み時間

・ 40・10・40・10・40

質問の受け方

・ チャットを活用。

ブレイクアウトルームの活用

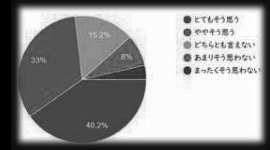
・ あらかじめ司会者や発表者を決めておく。

授業終了後の質問タイム

・ 可能であれば少し残って質問を受ける。

TEAMSの活用

・ TEAMSで連絡を取り合う。(例)



目、肩、腰の疲労、ストレス

6) 成功の秘訣

格差をつくらない

・ 教室とZOOMに、同じように目を配る (目線)

ITの習熟度を上げる

・ 週を追うごとに上達する。

学生の慣れもある

・ 時間の経過と共に学生も慣れてくる。

CAさんの活用

・ クラス前に打ち合わせを、クラス後に感謝する。

不慣れであることを学生に祈ってもらう

・ 祈ってはじめて、祈って終わる。

ご視聴、ありがとうございました。



2020/11/3

F.D.

ONLINE



HYBRID

HYBRID COURSES
COMBINE ONLINE &
FACE-TO-FACE
FORMATS

ON CAMPUS



オンライン&対面
ハイブリッド授業



はじめてのハイブリッド授業 ～複数の機材を用いた実践例～

2020年11月3日 FD

立山剛



目 次

2

- 大型ディスプレイ等を利用した場合
- スイッチャーを利用した場合

前提

3

- 教室の学生はzoomにログインしなくてもいい
- 操作はCAと連携して行う

対象

4

- ホワイトボード（タブレット）と資料画面を切り替える
- 実習などの様子をビデオで配信する

大型ディスプレイ＋スピーカーフォン

5

できること	教室の学生がオンラインの学生を確認できる
メリット	教室の学生がzoomに入らなくてもオンラインの学生とシームレスにコミュニケーションできる
デメリット	教室の大きさや人数に応じて、音声聞き取りやすいようにマイクの設置場所を確認する必要がある

スイッチャー

6

できること	カメラやタブレットをスムーズに切り替えることができる
メリット	実習などの授業をカメラで配信できる タブレットをホワイトボードとして利用することで資料とホワイトボードをスムーズに切り替えることができる
デメリット	教室に機材を操作するスタッフが必要 学生にスピーカービューを指定



2021/2/16

東京基督教大学 FD/SD


「新しい成績基準とシラバス」

New Grading Criteria
& Writing A Good Syllabus

担当者：岡村
Naoki Okamura Ph.D.



振り返り：成績評価の種類と方法
 何に基づいて評価する？



絶対評価
 あらかじめ決められた基準に基づく評価


相対評価
 個人が属する組織や集団内における位置に基づく評価

個人内評価
 個人の出発点から学びの効果を測る評価

グループ内評価
 グループ全体の出発点から学びの効果を測る評価

ゴール・フリー評価
 当初は目標と（予測）されていなかった効果を測る評価

振り返り：成績評価の種類と方法
 いつ評価する？

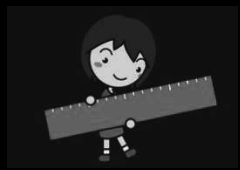


事前評価
 主に教員が学習者のレディネスを把握しそれを教育に生かすため

事中評価
 教員と学習者の双方が、学びを確認し改善を図るため

事後評価
 教員と学習者の双方が、学びを総括するため

振り返り：成績評価の種類と方法
 誰が評価する？




他者評価
 評価者と被評価者が別人である

自己評価
 学習者自身が学びを振り返る

相互評価
 学習者自身（個人、グループ）が相互に学びを振り返る

振り返り：成績評価の種類と方法
 どのように評価する？



集中型評価
 絶対的評価基準に基づいた、教員による期末評価

パフォーマンス評価
 学習者の意欲、創造力、思いやり、雰囲気作り等を評価

ポートフォリオ型評価
 事前、事中、事後評価を、他者、自己、相互的に実施する

グループ評価
 グループを対象にその成果物を評価する

2021/2/16
TCU FD・SD

「新しい成績基準とシラバス」
New Grading Criteria & Writing A Good Syllabus

- 1) 2020/2/4 の振り返り
Reviewing 2002/2/4
- 2) 学科再編と新しい成績基準
New Grading Criteria
- 3) シラバスの作成
Writing A Good Syllabus
- 4) TCU オンライン・ラーニング・プログラム
TCU Online Learning Program




2) 新しい成績基準

LG	GP	素点	幅	可否
A+	1	4.00	100-90	11 合格
A	2	3.00	89-80	10 合格
B	3	2.00	79-70	10 合格
C	4	1.00	69-60	10 合格
F	5	0.00	59-0	1 不合格

LG	GP	素点	幅	可否
A	1	4.00	100-95	6 合格
A-	2	3.70	94-90	5 合格
B+	3	3.30	89-87	3 合格
B	4	3.00	86-83	4 合格
B-	5	2.70	82-80	3 合格
C+	6	2.30	79-77	3 合格
C	7	2.00	76-73	4 合格
C-	8	1.70	72-70	3 合格
D+	9	1.30	69-65	5 合格
D	10	1.00	64-60	5 合格
F	11	0.00	59-0	1 不合格

新しい基準のメリット




LG	GP	素点	幅	可否
A+	1	4.00	100-90	11 合格
A	2	3.00	89-80	10 合格
B	3	2.00	79-70	10 合格
C	4	1.00	69-60	10 合格
F	5	0.00	59-0	1 不合格

LG	GP	素点	幅	可否
A	1	4.00	100-95	6 合格
A-	2	3.70	94-90	5 合格
B+	3	3.30	89-87	3 合格
B	4	3.00	86-83	4 合格
B-	5	2.70	82-80	3 合格
C+	6	2.30	79-77	3 合格
C	7	2.00	76-73	4 合格
C-	8	1.70	72-70	3 合格
D+	9	1.30	69-65	5 合格
D	10	1.00	64-60	5 合格
F	11	0.00	59-0	1 不合格

- 1) グローバルスタンダードに近くなります。
- 2) より細かい (学生の現状に沿った) 成績評価が可能です。
- 3) 評価基準 (優秀成績賞や学習支援クラス) の数値基準がわかりやすくなります。

LG	GPA	主な評価基準項目	Raw Score
1 A	4.00		100-95 6
	3.80	学士課程: Summa Cum Laude (超最優秀)	
2 A-	3.70	学士課程: Magna Cum Laude (最優秀) 修士課程: 成績優秀	94-90 5
	3.50	学士課程: Cum Laude (優秀)	
3 B+	3.30		89-87 3
4 B	3.00	修士課程: 科目における平均値目安 (?)	86-83 4
5 B-	2.70	学士課程: 科目における平均値目安 学士課程: 上限単位超過の条件 学士課程: 副専攻、卒業研究基準 学士課程: 大学院の内部進学基準	82-80 3
6 C+	2.30		79-77 3
7 C	2.00		76-73 4
8 C-	1.70		72-70 3
	1.69	学士課程: 学習支援クラス	
9 D+	1.30		69-65 5
10 D	1.00		69-60 5
11 F	0.00		59-0 1

新しい基準のデメリット



LG	GP	素点	幅	可否
A+	1	4.00	100-90	11 合格
A	2	3.00	89-80	10 合格
B	3	2.00	79-70	10 合格
C	4	1.00	69-60	10 合格
F	5	0.00	59-0	1 不合格

LG	GP	素点	幅	可否
A	1	4.00	100-95	6 合格
A-	2	3.70	94-90	5 合格
B+	3	3.30	89-87	3 合格
B	4	3.00	86-83	4 合格
B-	5	2.70	82-80	3 合格
C+	6	2.30	79-77	3 合格
C	7	2.00	76-73	4 合格
C-	8	1.70	72-70	3 合格
D+	9	1.30	69-65	5 合格
D	10	1.00	64-60	5 合格
F	11	0.00	59-0	1 不合格

- 1) 旧基準と新基準が並存する期間がしばらく続きます!
- 2) 旧カリキュラムの学生が在学する限り残ります!
- 3) 同じクラスで同じ素点を取っても、レターグレードが異なります! (GPAには大きな変化はありません。)

	A	B	K	L	M	N	O	P	Q	X
1	2019年秋分学生									
2	単位数 素点 課外LG 課外GP 新LG 新GPA									
3	34591	1300	2	89 A		3 B+	3.3	5.6	6 学期	
4	35049	1300	2	78 B		2 C+	2.3	4.6	6 学期	
5	34898	1300	1	D F		0 F	0	0	6 学期	
6	35025	1300	2	82 A		3 B+	2.7	5.4	6 学期	
7	34845	1300	2	81 C		1 D	1	2	6 学期	
8						2	2.08	18.6		
9										
10										
11	34764	1329	2	50 F		0 F	0	0	6 学期	
12	34858	1329	2	80 C		1 D	1	2	6 学期	
13	34865	1329	1	80 C		1 D	1	1	6 学期	
14	34899	1329	2	87 A		3 B+	3.3	5.6	6 学期	
15	35324	1329	2	90 A+		4 A-	3.7	7.4	6 学期	
16						1.88	1.88	17		
17										
18										
19	35028	1411	2	81 A		3 B-	2.7	5.4	6 学期	
20	34828	1411	2	71 B		2 C-	1.7	3.4	6 学期	
21	34848	1411	2	84 C		1 D	1	2	6 学期	
22	35100	1411	2	84 A		3 B	3	6	6 学期	
23	35219	1411	2	72 B		2 C-	1.7	3.4	6 学期	
24	35495	1411	2	59 F		0 F	0	0	6 学期	
25						1.83	1.83	20.2		
26										
27										
28	35529	1502	2	83 C		1 D	1	2	6 学期	
29	35011	1502	2	70 B		2 C-	1.7	3.4	6 学期	
30	35095	1502	3	73 B		2 C	2	6	6 学期	
31	35596	1502	2	84 A		3 B	3	6	6 学期	
32	35353	1502	2	88 C		1 D+	1.3	2.6	6 学期	
33						1.82	1.82	20		
34										
35	34838	1521	3	80 C		1 D	1	3	6 学期	
36	35513	1521	2	88 A		3 B+	3.3	6.6	6 学期	
37	35569	1521	2	80 C		1 D	1	2	6 学期	
38	35501	1521	2	82 A		3 B-	2.7	5.4	6 学期	
39	35173	1521	1	90 C		1 D	1	1	6 学期	
40						1.8	1.8	18		
41										

成績基準の定型化



	頻度	項目	配点	採点①	採点②	採点③	採点④	採点⑤	採点⑥	採点⑦	採点⑧
1	1 毎回	授業参加度	10	10	10	10	8	8	7	7	7
2	複数回	小テスト	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	2 複数回	リフレクション	20	20	20	18	16	16	14	14	14
4	1 1回	中間テスト	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	1 1回	中間レポート	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	3 1回	発表	30	28	26	24	24	24	24	22	21
7	1 1回	期末テスト	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	4 1回	期末レポート	40	38	36	36	36	32	32	30	28
9	—	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		総合点	100	96	92	88	84	80	77	73	70
		GP		4.00	3.70	3.30	3.00	2.70	3.30	3.00	2.70
		GP		A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-
		素点幅		95-100	90-94	87-89	83-86	80-82	77-79	73-76	70-72

定型化に関するお願い



- 今後、採点は『TCU オンライン』上で実施します。
- 成績評価項目を下記のように1~9で定型化し、合計素点「100」となるようにしてください。
- 9つの項目すべてを満たす必要はありませんが、最低3つ以上で評価する文化の定着を目指しています。
- 評価項目とおおよその配点は、履修登録時までには確定してください。

2021/2/16

TCU FD・SD

「新しい成績基準とシラバス」
New Grading Criteria & Writing A Good Syllabus

- 2020/2/4 の振り返り
Reviewing 2002/2/4
- 学科再編と新しい成績基準
New Grading Criteria
- シラバスの作成
Writing A Good Syllabus
- TCU オンライン・ラーニング・プログラム
TCU Online Learning Program

3) シラバスの作成

“ シラバス [syllabus]
一年または一学期間の、講義の計画と内容を解説したもの。講義概要。
（『大辞林』三省堂） ”

賢コメモ!

オックスフォード英語辞典によると、syllabusという言葉は、元来は羊皮紙のラベルを意味するギリシャ語 (σὶ λ λ υ β ο ς) で、ローマの哲学者キケロが親友に宛てた書簡の中で複数対格形のギリシャ語を引いて紹介しているものが、15世紀に出版された本の冒頭で、内容説明として誤用されるようになったものである。Datumの複数形dataが一般的に用いられるように、syllabi (複数形) が一般名詞として用いられている。

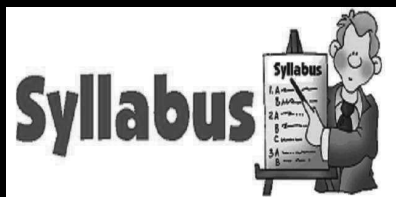
シラバスの内容 (例)

- ・ クラスの概要
- ・ 学習の到達目標
- ・ 大学教育の目標における位置付け



- ・ 学習 (クラス) の内容とスケジュール
- ・ 課題のスケジュール

- ・ 評価の意図
- ・ 評価の方法
- ・ 評価の基準



- ・ 教員の責任の範疇
- ・ 学生の責任の範疇

必然性の共有

クラスで出される課題、およびそれに対する評価方法、そして評価基準に必然性があることを学生に説明することも教員の役割です。

「なぜこの課題は、クラスの学習の到達目標に向けた学びの一環として必要なのか？」



「なぜこの評価基準は、クラスの学習の到達目標に向けた学びの一環としてふさわしいのか？」

このような問いかけを想定し、口頭で、またシラバスの中に文章で明記することが重要です。その場合、学生にとって特に重要となるのが、評価基準の尺度です。

わかりやすい評価の方法と指標

評価基準の尺度のひとつにルーブリックがあります。それは単純な「正・誤」で判断することのできない課題やプロジェクトに対する評価基準のことです。

T/F 式や、選択式のテストの回答は、白黒をはっきりと付けることができますが、小論文や研究発表、またグループ・プロジェクトの評価には、技能・表現力・思考力・判断力・興味・関心・意欲・態度といった評価の難しい項目が関わってきます。しかしそのような、ある意味「測りづらい力」こそが多くの場合、大学の「教育目標」に謳われている重要項目となります。

教育目標

東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。



そのような「測りづらい力」を測るための尺度が、ルーブリックです。たとえばグループワークのパフォーマンスを評価する時に、以下のような尺度を設定します。

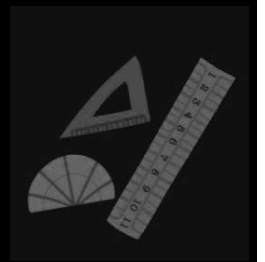
ディスカッションワークのルーブリック表

	4	3	2	1
傾聴力	目線を合わせながら相輪などのリアクションをする	目線が合う、もしくはリアクションを取っている	相手と目線を合わせず、リアクションもしない	目線を合わせず、リアクションを取らず、他のことをしている
参加意欲	グループで6回以上発言する	グループで3回以上発言する	グループで発言を1回する	発言しない
理解力	グループの結論と経緯を説明できている	グループの結論を説明できている	グループの結論の1部を説明できている	グループの結論と記述内容にずれがある

大切なことは、この尺度を使って評価することだけでなく、この評価基準が学生によって確認・理解されていることで、パフォーマンスそのものを向上させることができます。

もちろん「完璧なルーブリック」は存在しません。ですから教員は、経験を重ねて、ルーブリックをより良いものへと変更し続けていくことが重要です。その過程で、他の教員のルーブリックを参考にしたり、また学生の意見をルーブリックに取り入れることもできます。学生が主体的に、自らに当てはめられる評価基準の作成に参加することは、彼らの学習意欲の向上にもつながります。

厳密に数値化されたルーブリックを作るのは、なかなか時間のかかる作業ですが、もっと簡易なルーブリックでも、学習効果は向上します。たとえば、ひとつの課題に対する評価基準を5つの項目で表して学生に伝えることです。



簡易ルーブリックの例 #1 「組織神学Ⅰ」の課題

中学生向け月報の執筆、題「聖書って信じられる？」(500字)

課題の意図・・・シラバスに記載された到達目標の#3
課題の配点・・・10点(最終成績の10パーセント)

評価の基準(それぞれの項目が、4段階で評価されます。)

1. 記述内容の正確さ
2. 読者の年代に合わせたわかりやすさや配慮
3. 文章や構成の興味深さ
4. 信仰生活への示唆
5. 文字制限に対する忠実さ

評価の方法

1. 教員による評価
2. 学生による相互評価(クラス発表)

簡易ルーブリックの例 #2 「コースミニストリーの神学と実践」

コースミニストリー・アイデア・プレゼンテーション(3人1組)

内容:各プレゼンターは、中高生対象のミニストリーの計画案を作成してください。計画案には、想定場所、ミニストリーの名称、テーマ、聖書の基盤、意義、見込み参加人数、参加者呼びかけの方法、教会との連携方法、リーダーシップ、場所、時間、奉仕者の人数と担当内容、予算、準備期間、実施期間、アクティビティーの内容、目標、目標達成度の評価方法を詳しく記述し、そのミニストリーを「役員会へ提言」という設定で臨んでください。各プレゼンテーション後には、質疑応答の時間をもち、クラスからの様々な疑問に答えてください。クラスは最終的に、プレゼンテーションされた各ミニストリーのアイデアに対して、以下の基準で相互評価を行います。(最終評価には教員による評価も加えられます。)

評価基準:以下の質問に対して、各項目5段階で評価されます。

- 1) 求められている内容がすべて盛り込まれているか?
- 2) 中高生へのアピールがあるか?
- 3) 準備のための労力やコストが現実的か?
- 4) グループ内のチームワークや役割分担は適切であったか?
- 5) 役員会の賛同をどの程度得られるか?

責任の所在はどこに？

学生の責任を具体的に明示する

クラス内学習における学生の責任は、出席と課題の提出に限定されがちですが、それぞれのクラスの運営に沿った、学生の責任（教員の願望も含め）を明示することで、学生の不安が解消されます。また、「当たり前!？」と思うことでも、具体的にシラバスに明記することで、後の混乱を防ぎます。

- ・シラバスの熟読と内容の確認
- ・教科書67ページから78ページを授業前に読んでおくこと
- ・再提出が求められた際のデータの保存
- ・グループ学習における連絡・相談・他者への配慮
- ・不明な点を教員に聞くこと

学生への説明責任を負う

クラスを運営する上で、学生間に不必要な混乱や不安を生じさせないようにするのは、教員の責任です。そのためにも、しっかりしたシラバスを作成することが重要で、それは教員と学生間の契約書のような役目を果たします。

また個別の学生へのフィードバックや、学生からの相談にのることも、教員の大切な働きの一部です。時には成績に関して、生徒からの苦情を受ける時もあるでしょう。そのような時は丁寧に説明することも教員の責任の一部であり、またそれも教育の良い機会となります。そのためにもシラバスに、学習の内容、目的、スケジュールに加え、評価の方法と基準、学生の責任範囲等を明記することが重要です。



教務課にお尋ねください！

学生は成績に対する不満を、教員ではなく教務課に表明することがあります。（成績調査の依頼）教務課は、個々の教員が把握していない総合的な情報や個々の学生の事情を心得ている場合が多くあるので、成績評価に迷った場合には、ぜひ教務課に相談してください。



また体調不良等の健康上の課題を持つ学生に加え、特に近年は、発達障がいや、精神疾患で苦しむ学生が増えています。全ての学生に対して紋切り型の対応をするのではなく、成績評価の平等性に気を配りつつ、個々の学生の必要に応じることが重要です。そのためにも、教員と教務課、学生課との連携が必要不可欠となっています。



4) TCUオンライン・ラーニング・プログラム

以前よりお知らせしておりましたTCUの新たなオンライン・プログラムがいよいよこの4月から開始されます。以下の特徴を持ったプログラムとなります。



- ・コロナ禍で培ったオンライン教育のノウハウを活かします。
- ・日本のより多くのクリスチャンに学びの機会を提供します。
- ・オンライン・プログラムの履修から、本科生へという道筋を作り、学生募集に寄与します。
- ・赤字体質のTCUにとって、貴重な収入源となることを目指します。（対面受講・聴講は従来通り可能とします。）

学びの種類



リアルタイム受講

週の決められた時間に本科生と共にZOOMで受講
単位取得、課題等にも取り組む

リアルタイム聴講

週の決められた時間に本科生と共にZOOMで聴講
単位取得なし、課題等の取り組みは選択可

オンデマンド受講

授業週に授業録画で受講、課題等に取り組む、単位取得

オンデマンド聴講

ごく一握りの講義の内容を事前登録者に対し無料で提供

大学院

コース名	科目名	教員	学期	日時
1 聖書学	1 解釈学	伊藤明生	春	水曜 15:50-18:10
	2 五書	木内伸嘉	秋	火曜 13:00-15:20
	3 パウロ書簡	伊藤明生	冬	水曜 13:00-15:20
2 実践神学	1 人間理解とミニストリー	岡村直樹	春	火曜 8:40-11:00
	2 キリスト教と教育	岡村直樹 徐有珍	秋	火曜 8:40-11:00
	3 キリスト教と心理	岡村直樹	冬	火曜 8:40-11:00
3 歴史神学	1 宗教改革史	須藤英幸	春	水曜 13:00-15:20
	2 近現代のプロテスタント神学	須藤英幸	秋	水曜 13:00-15:20
	3 キリスト教の教理形成の歴史	齋藤五十三	冬	火曜 13:00-15:20
4 宣教学	1 日本の諸宗教とキリスト教	大和昌平 清野勝男子	春	金曜 8:40-11:00
	2 日本キリスト教史	山口陽一	秋	水曜 15:50-18:10
	3 現代における宣教と教会	篠原基章	冬	金曜 8:40-11:00

学部

コース名	科目名	教員	学期	日時
1 聖書	1 キリストと世界Ⅱ：旧約	菊池実	春	火曜 13:00-15:20
	2 旧約聖書概論Ⅱ	菊池実	秋	金曜 13:00-15:20
	3 キリストと世界Ⅲ：新約	伊藤明生	冬	水曜 8:40-11:00
2 聖書言語 (ヘブライ語)	1 ヘブライ語Ⅰ	菊池実	春	
	2 ヘブライ語Ⅱ		秋	火曜 9:50-11:00
	3 ヘブライ語Ⅲ		冬	
3 聖書言語 (ギリシア語)	1 ギリシア語Ⅰ	須藤英幸	春	
	2 ギリシア語Ⅱ		秋	火曜 9:50-11:00
	3 ギリシア語Ⅲ		冬	
4 神学	1 キリストと世界Ⅰ：神学	岡村直樹	春	金曜 13:00-15:20
	2 キリスト教史Ⅰ	須藤英幸	秋	水曜 13:00-15:20
	3 組織神学Ⅲ-キリスト論・救済論	齋藤五十三	春	水曜 13:00-15:20
	4 キリスト教史Ⅱ	須藤英幸	冬	水曜 13:00-15:20
	5 日本キリスト教史	山口陽一	春	水曜 15:50-18:10
5 ユースミニストリー	1 キリスト教教育Ⅰ	徐有珍	春	火曜 13:00-15:20
	2 ユースミニストリーの神学と実践	岡村直樹	秋	水曜 8:40-11:00
	3 思春期の文化と伝道	岡村直樹	冬	金曜 13:00-15:20
6 教会と社会	1 キリスト教と開発	森田哲也	春	水曜 13:00-15:20
	2 異文化理解入門	大和昌平	秋	水曜 15:50-18:10
	3 異文化理解入門	篠原基章	春	水曜 13:00-15:20
	4 キリスト教公共福祉学入門	井上貴詞	秋	水曜 15:50-18:10
	5 女性と社会	岩田三枝子	春	水曜 15:50-18:10
	6 心理学Ⅱ	岡村直樹 徐有珍	冬	水曜 8:40-11:00

ご担当下さる先生方へ

オンデマンド受講は、教員に過度の負担とならないよう受講同意書に注意文を記載し、確認のサインを求めます

オンデマンド受講は、授業料の一部を教員の超過負担への対価とすることを検討しています。

プログラム受講生がいるクラスには、CA等のサポートを優先的に付ける予定です。

なるべく多くの先生方にご協力をいただきたいと思いますが、神学系の授業の割合が多くなります。

コロナ対応もあり、春学期の履修登録、3月には開始します。早めの(2月中)のシラバス作成をよろしくお願いいたします。



2021/2/16
東京基督教大学 FD/SD

「新しい成績基準とシラバス」

New Grading Criteria
& Writing A Good Syllabus

担当者：岡村
Naoki Okamura Ph.D.

ふさわしい成績評価とは？ 学生が成長し 主体的に学ぶ力を身につけるために

2021.2.16
教務部 FD



本日のタイムライン

2

- 16:00-16:30 『新しい成績基準とシラバス』
- 16:30-17:00 『TCUオンラインによる成績評価の登録方法』
- 17:00-17:10 休憩
- 17:10-17:20 グループディスカッション
- 17:20-17:30 質問タイム

本日は話す内容

3

システムのリニューアルにともなう出欠・成績入力方法の変更点について

変更点

4

1. 出欠入力
学務システム⇒TCUオンライン
2. 成績入力
学務システム⇒TCUオンライン

出欠画面

5

授業評価アンケート
Teams
出欠
欠席届 / Notice of absence

名/姓	12/1 (13:00) すべての 学生	12/8 (13:00) すべての 学生	12/15 (13:00) すべての 学生	12/22 (13:00) すべての 学生	01/5 (13:00) すべての 学生	01/12 (13:00) すべての 学生	01/19 (13:00) すべての 学生	02/2 (13:00) すべての 学生	02/9 (13:00) すべての 学生	セッション の 評価 率	パーセン テージ
Manaka Watanabe	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	9 / 18	100.0%
Matsui Aogu	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	欠 (0/2)	出 (2/2)	出 (2/2)	9 / 18	88.9%

出欠設定画面

6

セッション セッションを追加する レポート エクスポート 設定 一括ユーザ

ステータスセット 1 (出 遅 早 欠)

My Variables

#	変数名	説明	評点
1	出	出席	2.00
2	遅	遅刻	1.00
3	早	早退	1.00
4	欠	欠席	0.00

シラバス入力画面

7

成績評価の方法と基準

3以上の項目で評価ください。
項目毎に、占める割合(%)を記入ください。
すべての項目の合計が100(%)となるようにしてください
各項目について詳細な説明がある場合は、下記の欄にご記入下さい

Evaluation guideline

Please use more than 3 categories for evaluation.
Please decide percentage for each category.

The total should be 100%.

If you have detailed explanation for each category, please write below.
128字(1-300字以内) OK

授業参加度(Class Participation)	20%
リフレクション(Reflection Papers)	20%
小テスト(Quizzes)	10%
中間レポート(Midterm Report)	20%
中間試験(Midterm Exam)	20%
発表(Presentations)	10%
期末レポート(Final Report)	10%
期末試験(Final Exam)	10%
その他(Other)	10%
評価合計	100%

At the end of the term, you will receive one total grade of x/100.
The grade is based on this:
Attendance 20%, Presentations/Output Task 20% (with peer evaluations),
Language Focus 10%, Quizzes 20%, Word Count for Biz Reading through
ReadBasis.com 30%.

TCUオンライン：科目一覧画面

9

TCU科目情報一覧

496件のTCU科目情報があります。1件から50件までのTCU科目情報を表示しています。

検索条件: キーワード:

件数表示: 1 / 10 ページ

件数	科目コード	科目名	科目名(英)	科別年度	科別学期
<input type="button" value="詳細"/>	0 XXX1234	Total English A3	Total English A3	2021年度	春
<input type="button" value="詳細"/>	0 XXX1234	Total English B3	Total English B3	2021年度	春
<input type="button" value="詳細"/>	0 XXX1234	Tadoku Listening/Speaking	EARL/S	2021年度	春
<input type="button" value="詳細"/>	0 XXX1234	Total English CD3	Total English CD3	2021年度	春
<input type="button" value="詳細"/>	0 XXX1234	イシタ英語	イシタ英語	2021年度	春

TCUオンライン：教員管理画面

8

TCUオンライン：成績評価項目画面2

11

科目: Total English A3

基本情報 ▲ 生徒一覧 ▲ 成績評価項目 ▲ 生徒成績一覧

成績評価項目

項目	名称	配点	関連する活動
項目1	授業参加度 1	20点	出席(出欠)
項目2	小テスト2	-	なし
項目3	小テスト(リフレクション)	20点	中間テスト(小テスト)
項目4	中間テスト	-	なし
項目5	中間レポート	-	なし
項目6	プレゼンテーション(発表)	30点	期末テスト(小テスト)
項目7	期末テスト(発表)	30点	期末レポート(課題)
項目8	発表	-	なし
項目9	その他	成績/欠点	手動

▼ 学習システム連携情報

最終評価日時 (未設定)
最終評価者
最終評価テスト

TCUオンライン：成績評価項目編集画面

12

TCU成績情報の更新

必ず事項を修正し、更新ボタンを押してください。

更新前の画面

基本情報

科目: Total English A3

以下の項目の配点方法も選択してください。

項目1	名称: 授業参加度 1	配点割合: 20点	対象の活動: 出席(出欠)
項目2	名称: 小テスト2	配点割合: なし	対象の活動: なし
項目3	名称: 小テスト(リフレクション)	配点割合: 20点	対象の活動: 手動入力
項目4	名称: 中間テスト	配点割合: なし	対象の活動: なし
項目5	名称: 中間レポート	配点割合: 30点	対象の活動: 中間テスト(小テスト)
項目6	名称: プレゼンテーション(発表)	配点割合: なし	対象の活動: なし

TCUオンライン：学生成績一覧画面

13

TCU科目情報

TCU科目情報を変更するには「編集」ボタンをクリックしてください。

TCU科目情報一覧 | 成績評価項目 | 学生成績一覧

科目: Total English A3

基本情報 | 生徒一覧 | 成績評価項目 | **学生成績一覧**

学生成績評価一覧

生徒氏名	授業参加度1 (配点:20)		小テスト (リフレクション) (配点:20)		プレゼンテーション (発表) (配点:30)		期末テスト総レポート (配点:30)		その他 (配点:10)		GPA判定
	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	
三上 恩太 Enta Yurina (u16201@st.tcu.ac.jp)	18	-5	20	0	20	0	30	0	0	0	A-
三上 陽子 Yoshizawa Aki (u16209@st.tcu.ac.jp)	15	1	10	10	16	0	10	0	0	0	C+
小計:	13		20		20		30		0		83
小計:	16		20		16		10		0		62

TCUオンライン：学生成績編集画面

14

TCU成績生徒編集一覧

生徒の評定をおこなって下さい。更新ボタンを押すと評定が更新されます。

成績生徒の更新 | キャンセル

生徒氏名	授業参加度1 (配点:20)		小テスト (リフレクション) (配点:20)		プレゼンテーション (発表) (配点:30)		期末テスト総レポート (配点:30)		その他 (配点:10)		GPA判定
	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	
三上 恩太 Enta Yurina (u16201@st.tcu.ac.jp)	18	-5	20	0	20	0	30	0	0	0	A-
三上 陽子 Yoshizawa Aki (u16209@st.tcu.ac.jp)	15	1	10	10	16	0	10	0	0	0	C+
小計:	13		20		20		30		0		83
小計:	16		20		16		10		0		62

TCUオンライン：学生成績編集画面エラー

15

TCU成績生徒編集一覧

生徒の評定をおこなって下さい。更新ボタンを押すと評定が更新されます。

成績生徒の更新 | キャンセル

生徒氏名	授業参加度1 (配点:20)		小テスト (リフレクション) (配点:20)		プレゼンテーション (発表) (配点:30)		期末テスト総レポート (配点:30)		その他 (配点:10)		GPA判定
	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	評定	手動	
三上 恩太 Enta Yurina (u16201@st.tcu.ac.jp)	18	-5	20	0	20	0	30	0	0	0	A-
三上 陽子 Yoshizawa Aki (u16209@st.tcu.ac.jp)	15	1	10	10	16	0	10	0	0	0	C+
小計:	13		20		20		30		0		83
小計:	16		20		16		10		0		62

TCUオンライン：評定の確定の流れ

16

シラバス | TCUオンライン

授業参加度 (Class Participation) 0%

リフレクション (Reflection Papers) 0%

小テスト (Quizzes) 0%

中間レポート (Midterm Report) 0%

発表 (Presentations) 0%

期末レポート (Final Report) 0%

期末試験 (Final Exam) 0%

その他 (Other) 0%

TCUオンライン

名称	配点	出欠 (出欠)	関連する試験
授業参加度1	20点		
小テスト2	-	出欠	
小テスト (リフレクション)	20点	中間テスト (9/23)	
中間発表	-	出欠	
発表レポート	-	出欠	
期末レポート (発表)	30点	期末テスト (9/23)	
期末テスト総レポート	30点	期末レポート (課題)	

評点

生徒氏名

生徒氏名	授業参加度1 (配点:20)		小テスト (リフレクション) (配点:20)	
	評定	手動	評定	手動
三上 恩太 Enta Yurina (u16201@st.tcu.ac.jp)	18	-5	20	0
三上 陽子 Yoshizawa Aki (u16209@st.tcu.ac.jp)	15	1	10	10
小計:	13		20	
小計:	16		20	

タイプ 評点

尺度 デフォルトコンディション尺度

最大評点 20

アナウンス

17

- シラバスの入力は2月末までをお願いします。
- TCUオンラインのコースは次年度より、年度ごとにバックアップをとり、コピーを用意します。コースのコピーは3/12 (金) を検討しています。それ以前に春学期の準備を行う場合は今年度のコースを編集してください。
- 3月9日のFDは学修ポートフォリオの操作方法について説明する予定です。担任教員はTCUオンライン上で学修ポートフォリオ、時間割、成績、出欠状況に関する学生の情報を閲覧できるようになる予定です。

時間割

18

シラバス | メール | 蔵書検索 | 教員ポートフォリオ | 検索 | 日本語 (j)

年度 | 学期

月 | 火 | 水 | 木 | 金

科目名・単に
教員名・教室

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6

トップページ

学内サイト

履修登録

時間割

履修状況

成績

出欠状況

学修ポートフォリオ

ディプロマコメント

奨学金

申請フォーム

成績・履修状況

19

ユースタディーズⅤ

履修区分	取得単位数	科目名	年度	学期	成績	GP	単位
TCUコア 必要単位数 (30)	6	TCUスタンダードI	2020	春	A	3	2
		キリストと世界 I (神学)	2020	秋	B	2	2
		キリストと世界 II (新約)	2020	冬	A+	4	2
		道的形成	2020	冬			2
専攻 必要単位数 (40)	6	国際コミュニケーション	2020	春			2
		社会科学III(心理学I)	2020	春	A	3	2
		社会科学IV(心理学I)	2020	秋	A	3	2
		教会音楽I (ミュージックミニストリー)	2021	春	A	3	2
自由 必要単位数 (54)	4	実践神学I (メッセージの方法と実践)	2021	通			2
卒業単位数 (124)	16						
						GPA	3.33

成績・履修状況

20

音学▽ 副専攻
GPA 4
※2.50W.L

福祉▽ 副専攻
GPA 4
※2.50W.L

科目名	年度	学期	成績	GP	単位
教会音楽I (ミュージックミニストリー)	2020	春	A+	4	2
教会音楽II (教会音楽の歴史)	2020	秋	A+	4	2
教会音楽III (教会音楽の実践)	2020	冬	A+	4	2
教会音楽IV (クワイアI-4)	2020	冬			2
教会音楽V (オルガンレッスンI-4)	2020	通			4
キリスト教福祉I(人間の尊厳と自立)	2020	春	A+	4	2
キリスト教福祉I(人間関係とコミュニケーション)	2020	秋	A+	4	2
キリスト教福祉I(社会福祉論)	2021	春	A+	4	2
キリスト教福祉I(キリスト教公共福祉論)	2021	秋			2
キリスト教福祉I(障がいの理解)	2021	通			2

※副専攻履修条件

成績

21

シラバス メール 蔵書検索 教員ポートフォリオ 検索 日本語 (j) ▼

トップページ 学内サイト 履修登録 時間割 履修状況 成績 出欠状況 学籍ポートフォリオ ディプロマサブメント 奨学金 申請フォーム

TCUID 名前 学年

専攻 コース 時間

春学期

科目コード	科目名	単位数	評価	成績ポイント
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

登録単位数	修得単位数	成績ポイント	GPA
小計 <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
累計 <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

出欠状況

22

シラバス メール 蔵書検索 教員ポートフォリオ 検索 日本語 (j) ▼

トップページ 学内サイト 履修登録 時間割 履修状況 成績 出欠状況 学籍ポートフォリオ ディプロマサブメント 奨学金 申請フォーム

春学期 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回

科目

履修登録

科目

時間割

履修状況

科目

成績

科目

出欠状況

科目

学籍ポートフォリオ

科目

ディプロマサブメント

科目

奨学金

科目

申請フォーム

科目

グループディスカッション

23

- 3名のグループをつくります。時間は10分です。
- 今回の説明をうけて、感想、疑問点、気になったことなどを分かち合ってください。
- 最後に質問の時間がありますので、分かち合いで解決しなかった問題を質問する場合は質問者を決めてください。

東京基督教大学
2020年度 第2回

Faculty Forum

2020年 **3** 月 **9** 日(火) **9:30-12:00**

ZOOM

<テーマ>

TCU ポートフォリオ（仮）～主体的に学ぶ学生を育成するために～

<内容>

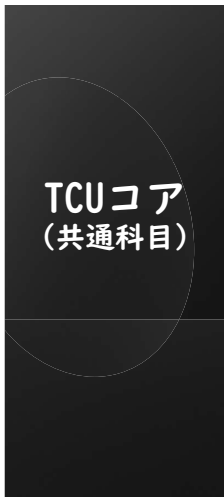
- ・担任の役割とコイノニア（小グループチャペル）の内容について 学部長 大和先生
- ・新システム TCU ポートフォリオ（仮）の利用方法 IT 支援室 立山職員

主催 ファカルティーディベロップメント委員会 fd@tci.ac.jp

新カリキュラム始動！

『担任の役割とコイノニアのプログラムについて』

学部長/教育・学生支援担当副学長
大和昌平



< 3つのポイント >

1. 霊的形成

神を知り、自分を知り、他者を知る。聖書を読み、祈る生活、教会に生きる喜びを身につける。

2. 基本知識・スキルの習得

TCUでの学びの土台となる知識とスキル、主体的に探究する基礎力を身につける。

3. 共同体での成長

信仰、学び、生活の共同体。一人でなく共同体での成長を目指す。

3つのポイントを基に設置された新たな科目

1. 「TCUスタンダード」 (通年科目/2単位×3 [春・秋・冬])

ラーニングコミュニティとしての共同体形成を重視。TCUが土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、自己理解、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にキリスト教としての自分自身を位置づける視点を養う。

2. 「霊的形成」 (2単位)

キリスト教としての生涯をそれぞれが豊かに生き抜いていくことめざし、神を知ることと同時に、自分自身をよく知ることに取り組む。

3. 「キリストと世界I・II・III」 (各2単位)

神学・旧約・新約を自らが生きる世界と関連づけて身近なものとして学ぶ。

4. 「クリスチャンライフ・フォーメーション」 (通年科目/4単位×4年)

TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成。霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とする。

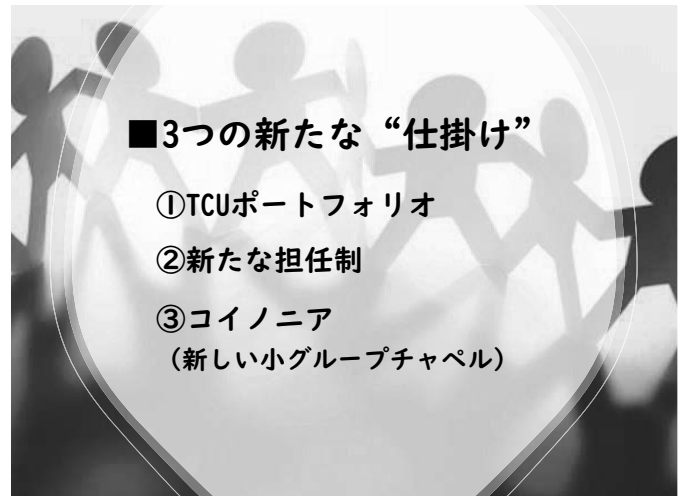


■授業概要:クリスチャンライフ・フォーメーション

“本科目は通年の4年間(編入生は2年間)にわたる共通科目です。本学は実践的神学教育(「建学の精神」)を重要な教育の柱とし、TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成をめざしています。”

“本科目は、霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とし、①大学におけるチャペル出席(コイノニア[小グループチャペル]を含む)、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な取り組みと振り返り、③地域教会での主日礼拝と教会奉仕を通じ、キリスト者として神と教会、そして人と社会に仕える姿勢と実践力を養うために設けられています。”

“学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価(「TCUポートフォリオ」)、および教員との面談等を通して自己理解を深め、自らの将来像を意識しつつ、総合的な自己形成を行います。”



■仕掛け① 「TCUポートフォリオ」

“TCUポートフォリオとは、それぞれの学生の霊性、学習、寮生活を含む学生生活の成長の記録です。学期の区切り、年末にTCUポートフォリオの記入を行い、自らの将来像を見据えつつ、次年度の目標を立て、振り返りを行い、その目標を意識した取り組みを積み上げていきます。”

“TCUポートフォリオの目的は、一人一人の学生の成長を可視化（見える化）するサイクルを繰り返すことで、教員からのフィードバックを受けながら、神に召された働き人としての自己を主体的に形成していくことにあります。”



■仕掛け② 「新たな担任制」

(1) 担任の目的

- ・学生の学修や生活に関心を持ち、トータルに関わる。

(2) 担任の役割

- ・クリスチャンライフ・フォーメーションの評価とフィードバック（TCUポートフォリオ）
- ・学生との霊的交わりの場としてのコイノニアを導く（グループの担任と協働）
- ・一年に一回個人面談（グループ面談）を行う。
- ・学びや学生生活全般の相談を受ける。
- ・必要に応じて、関連部署（教務部、学生部、寮主事、学生相談室、障がい学生学修支援委員会等）につなぐ。

■2021年度担当表

グループ	担任	コイノニア参加職員	学生数(目安)
総合神学科春入学1年	岩田、辻中	黒川、鳥海	18
神学科・国キ2年	森恵(国キ)	根岸(隔週)	33
神学科3・4年・シニア	篠原、マクドエル(神学)	立山、神田	(国12、神21)
教会教職3・4年	大和、徐、須藤	中南、溝口、入江	23
福祉3・4年	菊池、齋藤	高橋、小町	25
国キ3・4年	中澤、井上、菅野	川元、阿部	8
ACTS1・2年(春)	森田、倉沢	根岸(隔週)、虫明	15
ACTS3・4年(春)	ショート・柳沢	森(隔週)	7
総合神学科秋入学1年(秋・冬)	バビリエ・サイツマ	森(隔週)	12
ACTS2年(秋・冬)	バビリエ・サイツマ	森(隔週)	?+3
ACTS3・4年(秋・冬)	ショート・柳沢	森(隔週)	11
修士1年	岡村	村山、伊藤(天)、岩田	10
修士2年	伊藤	馬場、並木、高橋(伸)	17
教会音楽専攻科	宇内	岡田	3

■新カリ・旧カリ並行次の担任推移表

	新カリ		旧カリ		修士1年	修士2年	教会音楽
	1年生	2年生	3年生	4年生			
2021年度	初年度担当教員(20) 岩田、辻中、バビリエ	学科ごとに分かれる 神学科(21): 篠原、マクドエル 国キ(12): 森 ACTS 2年(6): サイツマ	専攻ごとに分かれる		岡村(10)	伊藤(17)	宇内(3)
			神学科・シニア(23): 大和、徐、須藤 教会教職(25): 菊池、齋藤 福祉(8): 中澤、井上、菅野 国キ(15): 森田、倉沢 ACTS(14): ショート、柳沢				
2022年度	初年度担当教員 岩田、辻中、バビリエ	2年度担当教員 森、マクドエル、須藤	専攻ごとに分かれる		岡村	伊藤	宇内
			神学科・シニア: 篠原、徐 教会教職: 菊池、齋藤、大和 福祉: 中澤、井上、菅野 国キ: 森田、ショート ACTS: サイツマ、柳沢				
2023年度	初年度担当教員 岩田、辻中、バビリエ	2年度担当教員 森、マクドエル、須藤	新旧専攻合同		伊藤	山口	宇内
			神学教養+: 神学科・シニア・ACTS: 篠原、サイツマ、大和 教会教職+: 教会教職: 菊池、齋藤 福祉+: 福祉: 井上、中澤、菅野 グローバル+: 国キ: 森田、ショート、柳沢 ユース+: ユース副専攻: 岡村、徐				
2024年度以降	初年度担当教員 岩田、辻中、バビリエ	2年度担当教員 森、マクドエル、須藤	神学教養: 篠原、サイツマ、大和 教会教職: 菊池、齋藤 ユース: 岡村、徐 福祉: 井上、中澤、菅野 グローバル: 森田、ショート、柳沢		伊藤	山口	宇内

(2) 形式

- ◆各学期毎週金曜日11:20-11:50（チャペルの時間）
- ◆2021年度春学期はZoomにて行う（帰寮しない学生もいるため）
- ◆1年生、2年生、各専攻、大学院各学年、教会音楽専攻科のグループに分かれ、担任（2-3名）が導く。
- ◆各専攻に関して、3・4年生合同で行うか、学年ごとで行うかは教員の裁量に委ねる。担当教員から対象学生に予定等を連絡する。
- ◆今後、2年生が興味のある専攻について知り、上級生との交わりを促すことを目的として、各専攻グループにビジットできるようにすることを検討している。
- ◆英語トラック生のため、1年生、2年生、神学教養専攻、グローバル専攻は日・英で対応できるよう教員を配置する。コイノニアのグループを、日英バイリンガルにするか、言語で分けるかはそれぞれのグループの担当教員の裁量に委ねる。

■仕掛け③ 「コイノニア」

(1) 目的: “コイノニア(小グループチャペル)は、学生同士また学生と教員の霊的な交流と成長を促す分かち合いの場です。毎週金曜日のチャペルの時間に、1年生、2年生、各専攻(3・4年)、大学院各学年、教会音楽専攻科の各グループに分かれて行います。TCUで共に学び生活する仲間との歩みを神様からの特別な恵みとして受け取り、御言葉を中心にしつつ、より意識的に味わっていくことを目指します。”



■コイノニアの出席確認について

- 学生の出席を励ますためにコイノニアの出欠は記録するが評価には反映しない。
- 学生には授業の一環として出席を取ることを事前に説明する。
- 欠席が続く学生には担任から声掛けやフォローアップを心がける。



■プログラム内容について

◎基本的には各担当教員の裁量に委ねる。

※負担のない範囲で、学生にアイスブレイクや奏楽などを依頼するのも一つ。
※学生にアイデアを出してもらい、一緒に作り上げてけると良い。

◎学期ごとのTCUポートフォリオの記入と振り返りは共通で実施する。

◎一つの例として

〔春学期〕ライフストーリー（TCUに来るまでの証）の分かち合い（当番制）
+ TCUポートフォリオの記入と振り返り

〔秋学期〕当番制による証（日々の生活での霊的な気づき）
※30分くらいの準備で話せる内容でOK
+ TCUポートフォリオの記入と振り返り

〔冬学期〕聖書や信仰書等を用いた学びと分かち合い/テーマを決めての分かち合い
+ TCUポートフォリオの記入と振り返り

■クリスチャンライフ・フォーメーションの評価方法

(1) 成績評価

成績評価は、年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行い、担任が「パス・ノンパス方式」(P/N)で判定。

(2) 評価の対象項目

- ポートフォリオの記入（霊性、学習、寮生活を含む学生生活の目標設定と振り返り）
- 担任教員との個人面談またはグループ面談
- チャペル出席（チャペルを授業の一環として位置づけることで、チャペル出席を励ます。）
- コイノニア出席
 - *コイノニアでは出席確認をする。出欠方法は他の授業と同様（当日入力）。学生には、クリスチャンライフ・フォーメーションのオリエンテーションで欠席する場合は担任に事前連絡するように伝える。
 - *特別な事情（通学生等）でコイノニアに参加することが難しい場合は個別に判断する。
- 「教会実習計画書」、「自己評価書」及び「実習教会牧師評価書」の提出



結びにかえて



Q&A セッション

付 録

東京基督教大学

2020年度 学生による授業評価アンケート 実施記録

- a. 対象科目：全科目（一部の実習科目を省く）
- b. 回答期間：各学期、授業の最終週から期末試験終了の1週間後まで
- c. 回答方法：TCU オンライン
- d. 記名式：無記名（性別 学年 専攻のみ記入）
- e. 質問項目：
回答の選択肢(「履修した動機」以外の質問)
 そう思う
 どちらかと言えばそう思う
 どちらとも言えない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 1. 授業のわかりやすさ
 - a. この授業では到達目標が明確に示されていた
 - b. 授業内容のレベル（難易度）は適切だった
 2. 授業の進め方
 - a. 時間配分など、先生の授業の進め方は適切だった
 - b. 先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた
 - c. 授業で課される課題の量は適切だった
 - d. 先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮していた
 3. 先生の態度・対応
 - a. 学生からの質問・提出した課題等に対して、先生から適切なフィードバックがあった
 - b. この授業に対する先生の熱意を感じた
 4. 学生の動機
 - a. この授業を履修した動機は何ですか？
(回答の選択肢) 単位を取りたいから、時間があつたから、将来に役立つから、先輩に勧められたから、必修だから、シラバスを読んで興味をもったから、〇〇先生が担当しているから、その他
 5. 学生の理解
 - a. この授業の内容を理解できた
 - b. シラバスに書かれているこの授業の到達目標を達成できた
 6. 学生の興味
 - a. この授業の分野について、興味・関心が湧いた
 - b. この授業を後輩にも勧めたいと思う
 7. 学生（自分自身）の態度・対応
 - a. 授業中に積極的に質問や意見を発言した
 - b. 授業時間があつという間に過ぎるように感じた
 - c. この授業の予習や復習に十分な時間をかけた
 - d. この授業を受けて満足した

8. 自由記述

- a. この授業を履修して良かったと感じる点をお書きください
- b. この授業をより魅力的にするために、具体的な改善策（環境、教材、課題、進め方の工夫等）を提案してください

(英語版)

Answers (Except for question #9, 18, and 19)

- I agree
- I moderately agree
- No opinion
- I moderately disagree
- I disagree

Questions

1. The goal of the course was clearly stated.
2. The level of difficulty of this course was appropriate.
3. The pace and time allocation of class was appropriate.
4. The instructor checked students' understanding as he/she taught.
5. The amount of assignments was appropriate.
6. The instructor made it comfortable for students to ask questions and share comments.
7. The instructor gave appropriate feedback for students' questions and assignments.
8. The instructor was passionate about the lesson content.
9. What were your motivations to take the course?
 - a. To earn credits
 - b. I had time.
 - c. It will benefit my future.
 - d. My senior(s) recommended the course.
 - e. It was a compulsory course.
 - f. I was interested in the course when I read the syllabus.
 - g. The instructor is _____ sensei.
10. I understood the lectures.
11. I achieved the goals of the course stated in the syllabus.
12. My interest in the academic discipline of the course increased.
13. I would recommend this course to others.
14. I actively asked questions and shared my comments in the class.
15. I felt that time flew by during the class.
16. I spent enough time preparing and reviewing the course (outside the classroom).
17. I was satisfied with this course.
18. What were the best aspects of this course?
19. How could this class be improved? Please provide concrete examples (Class environment, Lecture Materials, Assignments, etc.)

東京基督教大学

2020年度 教員による授業相互評価 実施記録

- a. 対象教員：専任教員
- b. 相互評価パートナー：互いに了解した二者、または学部長へ一任
- c. 評価項目：
1. シラバスの活用（わかりやすいか・理解できるか、沿っているか）
 2. 担当教員の指導（声や話し方、教科書・教材は効果的か、教具は有効に使用されているか）
 3. 担当教員の態度（時間の遵守、熱意、準備されているか）
 4. 担当教員の対応（質問に適切に応えているか、時間配分など）
 5. 担当教員の前年度の自己評価に基づき改善が見られたか。
(<https://acoffice.jp/tcihp/KgApp> から授業者を検索し、「教育活動の自己評価と目標設定」「教育活動の改善目標」を確認してください。)
 6. 良い点を具体的に記述してください。
 7. 改善が見込まれる点を具体的に記述してください。

(英語版)

1. Usage of the syllabus (comprehensibility, consistency with the class content)
2. Teaching skills (voice tone , speech, effectiveness of material, textbook and equipments)
3. Teaching attitude (punctuality, enthusiasm, preparation)
4. Respondence (Properness of the answer to questions, time allocation etc.)
5. Improvement from the previous year's self-evaluation.
(<https://acoffice.jp/tcihp/KgApp>)
6. Write down the good points specifically.
7. Write down the specific points that can be improved.

東京基督教大学

2020年度第1回ファカルティフォーラム

紀要合評会

日時：12月22日(火) 15:40-18:10

会場：zoom

Date: Tuesday, Dec 22 Time: 15:40-18:10

Place: zoom

Program: Article/thesis review from TCU Journal "Christ and the World" No.30

「靈的な闘いに関連する『立つ』行為について」

発表者 伊藤明生先生

講評者 齋藤五十三先生

「キリスト教福祉実践における信徒の位置づけに関する一考察
－宗教改革以降の歴史的変遷と今日的課題－」

発表者 井上貴詞先生

講評者 須藤英幸先生

『キリストと世界』第30号掲載
の伊藤明生先生と井上貴詞先生
の論文を事前に読んでご参加く
ださい。また、当日『キリスト
と世界』をお持ちくださいます
ようお願いします。

ファカルティーディベロップメント委員会
TCU Faculty Development Committee

2020年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告

2021年7月1日 発行

編集・発行 東京基督教大学
〒270-1347 千葉県印西市内野3-301-5
電 話 (0476)46-1131
FAX (0476)46-1405
<http://www.tci.ac.jp/>

印刷・キクラ印刷(株)
©東京基督教大学2021年

